日本語教育のための
プログラム

中国語話者向けの教授法から
森鴎外のデータベースまで

花村嘉英

目次

基礎編　序章　『日本語の教授法の取り組み』 1
第一章　『話す』. 3
第二章　『読む・書く』. 12
第三章　『訳す』. 23
第四章　『日本語教育を通じてシナジー論を考える』. 31
応用編　序章　『日本語教育を通してシナジー・共生を考える』 40
第一章森鴎外の「山椒大夫」のデータベース化とその分析 43
第二章　　森鴎外の「佐橋甚五郎」のデータベースとバラツキによる分析 . . . 60
編集後記 72
プロフィール 73

奥付
奥付 77

基礎編　序章　『日本語の教授法の取り組み』

日本語教育の現場で働きながら書いたレポートをまとめて、関係者の方たちに私の仕事ぶりを伝えていこうと思う。基礎編は 4 部構成である。

第一章の「話す」は、2009 年 3 月から 2011 年 1 月にかけて、武漢外語外事職業学院日本語学科で担当したクラスの教案をまとめた論文である。

第二章の「読む・書く」は、2012 年 2 月から 2013 年 1 月にかけて、天津外国語大学（　海区）日本語学科で担当したクラスの教案を修正した論文である。また、第二章の内容は、2012 年 8 月に名古屋大学で開催された日本語教育国際研究大会でも発表している。

第三章の「訳す」は、2011 年 8 月に中国・延辺大学で開催された第二回中日朝韓言語文化比較国際シンポジウムで発表した内容に加筆して、中日翻訳を比較言語学の視点（例えば、語順）から考察している。

第四章の「シナジー・共生」は、名古屋大学で開催された日本語教育国際研究大会（2012）の「研究でつながる広場」で意見を交わした内容とマクロを巡る現状の評価について述べた論文である。

それぞれの論文を作成した時点で問題解決を試みているため、多少記事が古い箇所もある。その点は了承してもらいたい。また、中国の大学で実践している日本語の教授法の全体像については、以下に示した通りである。

【話す】

教材：みんなの日本語 1、2、日本語会話-技巧編、実践ビジネス日本語

レポート：日本語の会話や作文からやさしい翻訳へ

【読む】

教材：日　最新新　听　、構成/特徴/分野から学ぶ新聞の読解（購読から要約へ）

レポート：中国人の学生に日本語の読み書きを教授する－要約文の作成について

【書く】

教材：　用日　写作教程、大学日語写作教程（課題作文）

レポート：人文科学のための人材育成について

【訳す】

教材：　　日精　教、　日日　同声　　（課題翻訳、シャドウィング）

レポート：中日翻訳の高速化－比較言語学からの考察

序章 致力于日　教育

我想通　从事日　教育工作　写的　告向相关者　述我的工作情况。基　篇由四部分成。

第一章的「　」是从 2009 年 3 月到 2011 年 1 月我在武漢外語外事　　学院日　学部担任日　会　　程教学　　的教案。

第二章的「　，写」是从 2012 年 2 月到 2013 年 1 月我在天津外国語大学（　海区）日　学部任教　用的教案。此外，第二章的内容已于 2012 年 8 月在名古屋大学　　的日　教育国　研究大会上　表。

第三章的「翻　」是 2011 年 8 月我在延　大学　　的第二届中日朝　　言文化比　国　研　会上　表内容。　是从比　　言学的　点 (例如　序) 来考察中日翻　。

第四章的「　作与共生」是 2012 年 8 月在日本名古屋大学　　的日　教育国　研究大会的「研究广　」上　　的内容以及从人文科学的　点来　述的宏　　价。

写　文的　候，　了解决　　，　事多少有　旧的地方，希望　者　解。　外，我在中国的大学　践的日　教育如　1 所示。

多次　　旋　四个板　，我整理出了教学法，也写了相关　文。如此，在　写教案的　候，不　能掌握教材，我也能按照自己的思路管理班　。

各板　中　明了已使用的教材和已完成的　文。今后我会考　各板　的平衡，　　致力于教学法。

第一章　『話す』

日本語の会話や作文からやさしい翻訳へ－中国人に日本語を教授する

【要旨】

2009 年 3 月から 2 年間、武漢外語外事職業学院で日本語のクラスを担当した。担当科目は、1 年生と 2 年生のための基礎会話と 2 年生の後半から 3 年生にかけて勉強するビジネス会話である。中国人に日本語の会話や作文を教授する際に、効果が上がると思われる方法について、教案を作りながら常に考えている。しかし、学期の毎に修正や改良が必要になる。まず、私の教案の作り方について説明し、次に会話や作文からやさしい翻訳まで全体的に関連づけて話を進めていく。

【キーワード】

教案の作成、場面のイメージ作り、会話や作文から翻訳へ

1　教案の作成方法

1.1　日本語の基礎会話

「みんなの日本語 1」と「みんなの日本語 2」の教案は、概ね作業内容が同じである。無論、随時内容を動かしながら授業を進めるため、異なる点も出てくる。まず、学期毎に 1 週間のコマ数を確認してから、時間の配分を決める。ここでは、一課を 4 コマで終えるケース（2 コマ x2 回、1 コマは 45 分）を想定して、教案の例を説明していく。

各課の文型については、補習用の資料を参考にしながら説明し、重要なポイントは、構文の解釈に基づいて解説していく。例えば、41 課は、「あげます」、「もらいます」、「くれます」と言った初歩的な受け渡しの敬語表現について勉強をする。最初に例文を使って発音の練習からスタートする。

表現方式を示す際、それぞれ対応する敬語「さしあげます（謙譲語）」、「いただきます（謙譲語）」、「くださいます（尊敬語）」についても合わせて説明する。構文については、「動詞て形＋さしあげます」、「動詞て形＋いただきます」、「動詞て形＋くださいます」というように分類して、それぞれテキストにある例文を示す。一回のクラス (45 分 x2 の場合) では、このパートは 30 分が目安である。

次は会話の練習で、まず全員で音読をし、それから二人一組 (ペアワーク) で同じように練習をする。学生の数にもよるが、このパートは 25 分が目安である。練習Ａは、文型とその構文の確認である。ここは 10 分にする。練習Ｂについては、回答をすべて黒板に書く。この練習の内容を使って学期末に筆記テストを行うため、学生にも回答を書くように勧めている。ここは 40 分ぐらい。練習Ｃは、単語を入れ替えて会話文を作る練習なので、15 分にする。各課の最後にある問題のパートは、聴解が 25 分、残りが 30 分から 35 分で進めていく。

1.2　ビジネス会話

「ビジネス日本語会話」では、学習者に初級が終了した日本語のレベルを求めている。ビジネスは、「ある組織に属している人が、同じ組織または外部の人とその組織の機能または目的を達するために何らかの関わりを持つ行為」と定義され、様々なビジネス上の場面を通して、組織の「うち、そと」とか上下関係のような対人関係で変化する日本語固有の待遇表現を取り上げている。（ビジネス日本語会話）日本語は、直接表現を多様する中国語と異なり、コミュニケーションの際に断定表現を避けながら、間接的な表現を用いることが多い。これは、対人に対してできるだけ丁寧に振舞うといった日本のビジネスルールによっている。

各課の構成は、ビジネス上のダイアログ（中国語訳付)、語彙、重要な表現（使い方の説明や例文あり）および練習からなっている。ここでは、一課を 6 コマで終えるケースを想定して教案の説明をする。最初に、新出単語を音読してからダイアログを音読する。ダイアログの背景やキーワードも合わせて説明していく。ここまでで 30 分から 35 分である。

次に、重要な表現を説明する。取り上げられている表現の数にもよるが、このパートは、30 分から 35 分である。最後に、練習問題を扱うが、この課の重要な表現について場面を想定しながら使用する練習である。慣れるまでは、教師と学生が一対一で練習する。その際、テキストにあるビジネス会話を少し拡張させることもある。このパートは、60 分から 70 分ぐらいである。

1.3　日本語の教授法計画

外国語の教授法といっても、本稿では特に中国人に日本語を教授するケースを想定している。授業をしていて、漢字系の外国人には日本語へのアプローチがそれほど難しくはないと感じている。文字の表記であれ、発音やアクセントであれそう思う。

まず、担当の教師と学習者が交わす情報交換について、一般的に念頭に入れておく必要がある方法を説明する。教師は、間接的に学習者の感情を受け入れて（例、冗談を言う)、学習者の考えを取り入れ、ほめたり励ましたりして、時には質問をする。また、直接批判をしたり、時には指示、命令を出す。一方、学習者は、外国語を学習しながら、応答的または自発的な発言をして、言語活動を展開していく。問題となるのは、相互作用のない沈黙や混乱の状態に陥ることである。

次に、授業の計画についてである。日本語の授業の計画法は 2 つある。1 つは、目標分析と単元構成、もう一つは、授業案の作成である。第一に目標分析票を作成し、そこに目標の内容（一課分の教材）と能力目標（認知面と情意面）を示しておく。（縫部 1991）

表 1 目標分析表

内容目標
1. 敬語の意味を教える
能力目標　認知面　知識理解○　応用分析　評価　技能／情意面　興味関心○　意欲満足　発展　協力
2. 敬語の形態を教える
能力目標　認知面　知識理解○　応用分析　評価　技能／情意面　興味関心○　意欲○　満足　発展　協力
3. 敬語を使用する
能力目標　認知面　知識理解　応用分析○　評価　技能○／情意面　興味関心　意欲満足　発展○　協力○
4. 敬語の応用を教える
能力目標　認知面　知識理解　応用分析○　評価○　技能／情意面　興味関心　意欲満足○　発展○　協力○

１課を 4 コマで指導するのであれば、内容目標（教材の内容）の欄には 4 つの指導目標を書く。毎時間どこに重点をおいて指導するのかわかるように、認知面と情意面にその指導内容を書いていく。こうすると、一課の指導目標（教材の内容）と重点目標が一目でわかるようになる。

最後に、教材を研究しながら考えた各課のパートの時間を入れていく。表 1 で言えば、敬語の 1 時間目は、内容目標が「敬語の意味を教える」となり、能力目標が知識・理解と興味・関心になる。そのために文型や例文を説明して、会話文の発音練習の時間を設定していく。

1.4　中国人に日本語を教授する

目標分析票を見ながら、時間毎の教案を書いていく。書きながら、何を教えるのか（導入としての教材研究）、どのぐらい教えるのか（展開のための目標設定）、どのように教えるのか（整理のための授業計画）といったことを考えていく。（縫部 1991）

教材の研究は、主に担当教師が行う作業である。クラスの始めに挨拶をして、ウォーミングアップで学習者の気持ちをほぐしながら、前回の質問事項にもこの段階で回答する。復習にもなるためである。教材からの提示については、漢字系の学習者の場合、母国語と全く同じ単語または推測がきく語彙を使用して、定義文（ある語を定義する文のこと）を交えて話を進めるようにする。黒板に書くと、反応が違う。

目標の設定では、スキルの獲得と応用を目指す。最初は教師の指示の下で日本語を表現し、次に、教師から離れて自由に日本語を作る作業に入る。ヒアリング指導の場合、言語的知識（音素識別力、語彙力、文法力）と思考活動（予測、記憶、判断、照合）の両面を発達させることが重要である。

例えば、スキミング（全体の大意を捉えて、だいたいどんな事を言っているかを聞き取る）とかスキャニング（自分がほしい情報だけを求めて聞き、後は聞き流す）あるいはマッチング（ある特定の情報だけに限定して聞き取る方法で、スキャニングよりも限定的）といったヒアリングのタイプは、どちらかというと言語的知識を活用している。一方、ハイポセシス・テスティング（自分の予想が当たっているかどうか確かめながら聞く）は、どちらかと言えば、思考活動のトレーニングになる。（縫部 1991）

クラスで漢字系学習者には、最初に漢字熟語のリストを与えず、音声と文脈から漢字を連想させるようにする。正確な読み方や使い方は後から説明するとよい。

リーディングの指導は、音読と読解に分けられる。音読とは、文字の音声化のことで、読解とは、テキストから情報を引き出すことである。いわば、音読は、読解のための基礎的な能力といえる。経験からもわかるように、音声と意味及び音声と文字はすぐに結びつくが、意味と文字はなかなか結びつかない。音声と意味の結合は、聴覚像が媒介になり、音声と文字は、記述像が媒介になる。意味と文字は、こうした聴覚像と記述像が二段階で結びつくことにより、次第に両者が直結するようになる。これがリーディングのゴールである。（縫部 1991）

漢字系学習者の場合、音声と意味の結びつつきを鍛えれば、音声と文字との結びつきもスムーズに行くと思われる。中国人の学習者にとって、日本語の発音やアクセントは決して難しくはない。

整理の段階でする作業は、目標の到達度のチェックと課題の提示であろう。どのくらいチェックできたのか毎回教師が確認する必要がある。また、クラスの中ではできないような課題、例えば、作文の練習を宿題にするのもよいと思う。弱点を補強し、次につながるような課題を出せばよい。

外国語の授業は、導入、展開、整理の三分節に分けることができる。45 分 x 2 の授業であれば、毎回、それぞれの時間配分を予め決めておくようにする。例えば、導入が 10 分、展開が 65 分－ 75 分、整理が 5 分－ 15 分というようにする。

表 2 教授法のプロセス

教授法のプロセス	内容
①時間毎の教案を書く	何を教えるのか、どのぐらい教えるのか、どのように教えるのかといったことを考えていく。
②ウォーミングアップ	前回の質問事項の回答や教材からの提示については、黒板に書

く。続けて目標の設定も説明する。

③ヒアリング指導　言語的知識（音素識別力、語彙力、文法力）と思考活動（予測、記憶、判断、照合)。スキミング、スキャニング、マッチングは前者、ハイポセシス・テスティングは後者になる。

④リーディング指導　音読と読解。音読とは、文字の音声化のことで、読解とは、テキストから情報を引き出すことである。

⑤整理してまとめる　目標の到達度のチェックと課題の提示。例、作文の練習。

2　会話や作文からやさしい翻訳へ

ここまでで獲得したスキルを使用して、やさしい作文を書くことを考えてみる。簡単な文型や単語を覚えれば、提示されたテーマについて、辞書を使いながら平易な日本語の作文は書けると思う。

2.1 会話から作文へ

日　会　技巧篇では、会話の場面のイメージを作ることを目標に授業を進めている。その際、ラーニングメソッドとしてペアワークによる簡単な会話を試みている。そのねらいは、会話による簡単なやり取りができるようになれば、誰もが語学ができるようになったと思うからである。

作文の練習の仕方として、テーマを与えて自由に書かせる方法もあるが、場面を設定して、その内容をまとめるという練習方法もある。自分である程度話せるようになった場面の内容であれば、頭の中に日本語のイメージを浮かべることができるため、あとはライティングが問題になる。辞書を使いながら、できるだけ読みやすい日本語を書くように心がければよい。

作文の添削指導をしていて思うことは、中国人の学生が日本語の活用や助詞の使い方を間違えることである。そもそも中国語には活用形がなく、中国語の動詞や形容詞が日本語のように語尾変化することはない。この点が中国人の学生には面倒なようだ。また、日本語の助詞に似た前置詞はあるが、主語の「は」とか「が」や目的語の「を」はない。「は」は、主題を表す助詞であるが、主体を表わす「が」と異なり、「特に」といったニュアンスがあるため、読みやすいように読点「、」が必用になる。これは、主題の「は」が主体の「が」よりも強い主語だからである。

簡単な作文が書けるようになれば、スタイル (文体) にも気をつけるとよい。日本語の文末は、「です・ます調」か「である調」でそろえなければならない。手紙とかビジネス

上の書面であれば、「です・ます調」で書き、新聞や雑誌等では「である調」が使われる。
学生が書く文章には、両方のスタイルが混在しているケースも間々見られる。こうした易しいライティングの基本を理解したら、次は就職試験でも書くことになる小論文へ進むことができる。学生の中には日系企業を希望する者がいるため、日本式の履歴書の書き方や面接試問も含めて日本式の就職活動について説明するのもよいと思う。

2.2　作文から小論文へ

小論文とは、ある事柄に対して自分で判断をし、その判断がなぜ正しいのかについて根拠を挙げて述べる文章である。参考資料からの引用を踏まえて、間接的で客観的に自分で考えたことを書いていく。一方、作文は、自分の経験をもとに、感じたことや考えたことを主観的に書く文章である。
わかりやすく、筋の通った説得力のある論文を書くには、構造をきちんと構築しなければならない。小論文の基本構造は、序論、本論、結論である。
序論とは、論文全体の紹介である。この論文が何を意図していて、どういう過程を経て結論に至るのかを説明する。ここを読めば、筆者が何を考え、何を主張しているのかがわかるようにする。私の結論はこれである、こうした方法論を用いて、こうした結論に至った、と序論に結論を書くのもよい。読み手は、結論を念頭に置いて、書き手の議論を追いながら検証していく。
本論では、自分の主張に沿って次から次へと証拠を上げながら、自分の議論を進めていく。論文の主張に沿って議論を進め、極力余分な情報は入れないようにする。余計な情報を入れなければ入れないほど、引き締まった論文になる。
結論は、裁判でいう判決部分である。本論で証拠を挙げながら述べた事の良し悪しを「～であるからこう考えます」のように導き出す。注意事項としては、次のようなことを考慮すればよい。自分の意見と確認できる情報は、区別すること。確認できる情報には、引用符をつけることも大事である。感想は、書かないほうがよい。また、「これ」や「それ」といった指示代名詞が何を指すのかがはっきりとわかるように書く。できるだけ指示代名詞を使わないようにする。読み手がわからなければ、書き手の意図は伝わらない。

2.3　小論文からやさしい翻訳へ

日　会　技巧篇のテキストでは、各章毎に場面が設定されていて、それに対応する対話文を使用しながら、練習をしていく。その中に日本の事情を扱った「小知識」というコラムがある。その内の一つを材料にして翻訳の話を進めていく。また、このテキストは、「です・ます調」を使用していることから、ここでもそれに準じようと思う。
我曾听到　　一件事：葬礼那天，失去丈夫的妻子穿着黑色的　服，　上　着微笑接待着前来吊唁的客人。一位外国人　到　　的情景，不禁　得奇怪:　道日本人不　得悲　？　是有关日本人 “迷一　的微笑” 的例子之一。一般来　，日本人都会按捺着悲　与怒，即使心灰意　也要面　微笑。
不管怎么　，外国人　　要了解没有表情的日本人的内心世界　在是很　。　是因　日

本人通常是通　眼睛和　作来表　用　言无法表　的内心世界的。常言道眉目　情，如果注意　位　女的眼睛，你一定会　　里面充　了悲　之情。(日　会　技巧篇)

それぞれの文の訳を考えていこう。

1　我曾听到　　一件事。曾は「かつて」、听到は「聞いたことがある」、　　は「このような」になる。訳は、「かつて、このような話を聞いたことがあります」。

2　葬礼那天，失去丈夫的妻子穿着黑色的　服，　上　着微笑接待着前来吊唁的客人。葬礼那天は「葬式の日」、失去丈夫的妻子は「旦那さんを亡くした奥さん」、穿着は「着ている」、黑色的　服は「黒い喪服」、　上は「顔には」、　着微笑は「微笑みを浮かべて」、前来吊唁的客人は「弔問に訪れる客を前に」になる。訳は、「葬式の日に、旦那さんを亡くした奥さんが、黒い喪服を着て、顔には微笑みを浮かべながら、弔問に訪れる客を前に接待していました」。

3　一位外国人　到　　的情景，不禁　得奇怪。　道日本人不　得悲　　？ 情景は「光景」、不禁は「思わず」、　得奇怪は「不思議に思う」、　道は「まさか・・・ではあるまい」、不　得悲　は「悲しいと思わないわけではあるまい」になる。訳は、「ひとりの外国人がこの光景を見ていて、思わず奇妙に思いました。まさか日本人は、悲しいと思わないわけではあるまい」。

4　　是有关日本人 “迷一　的微笑” 的例子之一。有关は「～に関する」、迷一　的微笑は「謎の微笑み」になる。訳は、「これは、日本人の『謎の微笑み』に関する例の一つです」。

5　一般来　，日本人都会按捺着悲　与　怒，即使心灰意　也要面　微笑。一般来　は「一般的に言って」、按捺は「抑える」、悲　与　怒は「悲しみと怒り」、即使は「たとえ・・・でも」、心灰意　は「意気消沈」、要面　微笑は「微笑みを保つ必要がある」になる。訳は、「一般的に言って、日本人は皆、悲しみや怒りを抑えことができます。たとえ意気消沈しているとしても、微笑みを保つ必要があります」。

6　不管怎么　，外国人　　要了解没有表情的日本人的内心世界　在是很　。不管怎么　は「いずれにせよ」、　　は「と思う」、　在は「実際に」になる。訳は、「いずれにせよ、外国人は、表情がない日本人の心の世界を理解するのが実際に難しいと思っています」。

7　　是因　日本人通常是通　眼睛和　作来表　用　言无法表　的内心世界的。因　は「・・・だから」、通　眼睛和　作は「目や動作によって」、用　言无法表　は「言葉では表現の仕様がない」になる。訳は、「これは、日本人が通常目や動作によって言葉では表現の仕様がない心の世界を表すからです」。

8　常言道眉目　情，如果注意　位　女的眼睛，你一定会　　里面充　了悲　之情。眉目　情は「目の表情で感情を伝える、つまり、目は口ほどに物を言う」、如果は「もし・・・ならば」、　位　女的眼睛は「この婦人の目」、一定は「必ず」、　　は「気づく」、悲　之情は「悲しい気持で一杯」になる。訳は、よく「目は口ほどに物を言う」といいますが、もしこの婦人の目に注意すれば、必ず内面は悲しい気持ちで一杯なことに気づくことでしょう」。

全体の訳文は、次のようになる。

かつて、このような話を聞いたことがあります。葬式の日に、旦那さんを亡くした奥さんが、黒い喪服を着て、顔には微笑みを浮かべながら、弔問に訪れる客を前に接待をしていました。ひとりの外国人がこの光景を見ていて、思わず奇妙に思いました。まさか日本人は、悲しいと思わないわけではあるまい。これは、日本人の「謎の微笑み」に関する例の一つです。一般的に言って、日本人は皆、悲しみや怒りを抑えることができます。たとえ意気消沈しているとしても、微笑みを保つ必要があります。

いずれにせよ、外国人は、表情がない日本人の心の世界を理解するのが実際に難しいと思っています。これは、日本人が通常目や動作によって言葉では表現の仕様がない心の世界を表すからです。よく「目は口ほどに物を言う」といいますが、もしこの婦人の目に注意すれば、必ず内面は、悲しい気持ちで一杯なことに気づくことでしょう。

卒業して実務経験を積んでから、翻訳の仕事をしてみたいと相談されたことがある。その際、「まずチェッカーから始めるとよい」と言ってきた。チェッカーは、訳抜けがあるかとか専門用語が正しかどうかを確認する翻訳者から編集者へのつなぎ役であり、また、翻訳の仕事が時間に厳しいこともわかるためである。

他の大学でも機会があれば、「みんなの日本語」から「日本語会話技巧編」及び「ビジネス日本語会話」への流れの中で、日本の文学や言語そして文化について話をしていきたい。

3　まとめ

武漢外語外事職業学院に赴任して、2 年間で中国人の学生に日本語を教授した内容について話をした。クラスでの指導の外に、2009 年 11 月に「中国から伝わった日本の言葉や文化-欧州との比較も混じえて」と題して、1 時間余り講演をし、講演後、質疑応答で 20 分ぐらい学生と熱く議論を交すことができた。

課外でも、武漢大学の大学院生にプライベート・レッスンの枠組で、中国語を教えてもらった。教材は、普通　-培　　教程である。発音の矯正から始まって、平易な中国語のテキストを中国語から日本語へ訳す練習をした。練習問題は、一応最後まで終了した。

【参考文献】

日　会　技巧篇：外語教学与研究出版社, 2003

邢福　：普通　-培　教程, 湖北科学技　出版社, 2005

縫部義憲：日本語教育学入門, 創拓社, 1991

スリーエーネットワーク：みんなの日本語 1、2（大家的日　1、2）, 外語教学与研究出版社, 2002

日本社　法人国　日本　普及　会：商　　日　会　, 大連理工大学出版部, 2003

花村嘉英：从　知　言学的角度浅析　迅作品－魯迅をシナジーで読む, 華東理工大学出版社,2015

第二章　『読む・書く』

中国人の学生に日本語の読み書きを教授する―要約文の作成について

【要旨】

天津外国語大学で日本語を専攻する学生を対象に新聞講読や日本語の作文のクラスを担当した。参加者は、いずれも日本語学習歴が 2、3 年の人たちだ。クラスの目標は、「新聞記事を手際よくまとめること」とか「一読でわかるやさしい日本語の文章を書くこと」である。双方とも最終的に要約ができるようになることを目標にしている。「読んで書く」という組みで教案を調節するためである。要約ができるようになると、学生なりに読書量も増えて集中力が身についていく。

【キーワード】

作業単位、テーマとレーマ、フィードバック、ワーキングメモリー、要約方法

1　教案の作り方

新聞講読の教案は、クラスの中で教材が指定されているため、教材を使用している間はこちらで用語や記事の背景について説明し、学生には音読や内容についての設問を課している。特に時事用語には慣れてもらいたいこともあり、中間テストで用語を確認するのもよい。以下では教材終了後に行っている要約の演習について説明していく。要約の演習については、作文のクラスでも最後に扱うため、新聞講読とリンクが張られている。ここでは、両方のクラスを連動させることが捻りとなる。

作文の基礎編は、参加者がこれまでに学習した教材の内容を確認する作業である。例えば、日本語の文章を作成する場合に、表記の仕方や文法、文型そして文体などがテーマになり、文章作成後は校正や添削の方法がテーマになる。校正や添削については、短文で間違い探しをするのも練習にはなる。しかし、できるだけ文章のレベルで課題に取り組む方がよい。その方が文章を作成しながら読みやすい文章を書く心得が身についていく。そのことについて一言述べる。

作文の作業単位は段落レベルを基本にしたい。誰もが一文一文を積み重ねて文章を書いていく。一文一文は、やさしい構文や表現を使用すればすぐに理解できる。しかし、一

文一文のつなぎがうまいとさらに一読で理解が得られるようになる。日本語は語順が自由であるため、文章の流れを意識する場合には、テーマとかレーマを考えるとよい。これについては後述する。

実践編の教案は、できるだけ実社会で役に立つと思われる内容にしたい。ビジネスを通じて必要になるライティングは、限られた時間でデータをまとめる技法である。会議のために資料を作りながら翻訳することなどは、日常茶飯事のことである。但し、そこは学生レベルのトレーニングであるため、できるだけポイントを押さえた易しい内容にしたい。その方がこちらの説明を理解してもらえるからだ。

2　奨励するトレーニング法

2.1　要約のための新聞講読

新聞記事は、通常①見出し、②リード（前文）そして③本文、④写真、⑤図表から構成されている。見出しとリードの関係やリードと本文の関係を考える場合に、見出しやリードの用語および本文のキーワードに注目すれば理解はできる。また、本文を前後半に分けても、三段式或いは四段式に分けても、それぞれに中心となる段落がつかめれば、要約のポイントを作ることはできる。（内田 2008）

要約の方法は、ことばという情報をまとめるテクニックである。しかし、対象は必ずしもことばでなくてもよい。その場の雰囲気とか対人の場面では相手の心理や意識も要約の対象になりそうだ。やり取りを円滑にするために、我々は五感で感じる音やにおい、味覚や感触さらには視覚情報を何かのことばに変えて相手に伝えている。

こうしたことばを記憶の中に留めるためのトレーニングに感情のネーミングがある。これは、小説などでいう微妙なニュアンスなどの調節にもつながっていく。自分の感情を一言で把握するという感情のコントロールは、一種の精神療法である。日頃からこのような頭の体操をすることも要約のトレーニングでは役に立つ。（和田 2003）

要約文は、どのように作れば上手くいくのだろうか。まず一つの段落からキーワードを探していく。キーワードが見つかれば、その単語を含む中心文を使用して場面のイメージを作ることができる。効率良くキーワードが見つかれば、文章の理解はスムーズになり、段落も手際よくまとめられるようになる。これがワーキングメモリー（作業記憶）のトレーニングの中で一番簡単である。

ワーキングメモリーは、すべての認知機能のベースであり、短期記憶の概念を拡張したもので、注意を監視するシステムのような役割がある。このメモリーは、長期記憶のように静的ではなく、一時的で動的な記憶といわれている。情報の保持と並列処理をしながら、目標に向けて行動を維持する働きがあるという。前頭葉に障害が出てこのメモリーが低下すると、何をしようとしたのかを忘れたり、会話や文章の内容がつかめなかったりする（例えば、注意障害）。（岡田 2011）

キーワードは、意味をつかむ上で重要なことばである。そのため、名詞とか動詞そして述語形容詞がキーワードになりやすい。名詞の中でも固有名詞や数字、カタカナは、情報が凝縮されているため価値がある。その他の品詞、例えば、副詞、接続詞、助詞、助動

詞は、キーワードにはなりにくい。（佐藤 2010）

段落の中で情報はどのように流れているのだろうか。講読時の言語情報の入力と出力という観点から見ると、構文と意味が組で扱われている。例えば、日本語のある入力文に対して、まずその言語の構文と意味の解析が行われ、ここに解析のイメージが作られる。次に、意味と構文が生成されて入力に対する理解ができあがり出力となる。段落を通してこうした入出力の作業が一文一文連鎖をなして行われている。

また、要約する場合は、その言語にかなり通じているわけだから、構文は自動的に解析されて、どちらかというと意味の解析に焦点が当てられる。その際、役に立つ言語処理としてテーマ・レーマがある。テーマとは主題のことをいい、文中で伝達の対象を表す既知の情報のことをいう。またレーマとは述題のことで、文中で伝達の内容を表す新情報のことをいう。要するに、段落の中で情報は旧新旧新の順に流れている。特に新と旧の情報がうまく組みをなすように段落が作れれば、一読でわかる文章に近づいていく。

中国語は語順が固定の言語であるため、日本語を専攻する中国人の学生にとって、言語間の特徴の違いを考えるこうしたトレーニングは意味がある。テーマとレーマの調節ができるようになれば、自ずとリーディングの際にもこうしたテクニックが反映される。その際にも一応５Ｗ１Ｈを使って文章を整える。

2.2　課題作文

日本語の文章の構成は、序論、本論、結論よる三段式か起承転結からなる四段式である。どちらの構成であれ、2 回に 1 回のペースで演習課題を出して学生に作文を書かせ、こちらで添削指導をする。演習課題は、月並みな日本についてとか諺や格言、説明文や感想文などである。作文の評価項目は、①当用漢字、②文法、③てにをは、④適正表現そして⑤独創性（ユニークさ）としている。

表 1 評価項目

A　当用漢字　簡体字、平仮名残り、誤字

B　文法　語順、活用形、句読点

C　てにをは　助詞の使い方

D　適正表現　日本語らしい表現

E　独創性　ユニークなストーリー

添削をしていて気づいたことは、クラスの中でフィードバックするように心掛けている。例えば、中国人の学生は、中国語の簡体字をそのまま使用することがある。また、中

国語には活用形がないために、送り仮名を間違えたり平仮名表記が残っているケースもある。しかし、闇雲に平仮名表記を漢字に直してほしいというだけでは指導が足りないと思う。つまり、当用漢字は必ず漢字表記にして、非当用漢字は漢字でも平仮名でもよいとする。例えば、日本語では「醤油」と書いても「しょう油」と書いてもよい。中国人は、とかく漢字を使用する傾向にある。

また、作文の中で読点を付けすぎる傾向にある。一般的に読んでわかるのであれば、特に読点をつける必要はない。新聞などは比較的読み流していく文章ゆえに、音読の切れ目切れ目で読点を付けている。

「てにをは」についてはいうまでもなく、膠着語を持たない中国語が母国語であるために、助詞の使い方は難しいようだ。月並みであるが、たくさんやさしい日本語の文章を読むことがトレーニングになると思う。

適正表現とは、物の作り方を説明する文章の場合、例えば、自分の得意料理を説明するのであれば、美味しそうに書くことを言っている。不味そうに書けばそのように読まれてしまう。この点を工夫することが作文の上達につながっていく。また、構文上の日本語らしさもある。繰り返すが、日本語が語順の自由な言葉であることを認識しながら文章を書くとよい。

独創性は、格言や諺を演習課題にすると、知っている中国の故事を使用して面白いユニークな作文を書いてくれる。課題作文から学生の思いがわかるように演習課題を設定するのも、セミナー担当者の調整力の見せどころになる。なお、添削指導の中でこうした点を説明しながら、日本語の一文は、句読点を含めて 40 文字前後と定義している。一読でわかるからである。

こうした単純な課題作文だけでなく、部分的にデータをまとめるトレーニングも実践的なものといえる。例えば、序論だけが見えていて本論と結論は自分で書く練習とか、起承転結の起承が決まっていてストーリーはそのままで転結の部分だけをまとめるといった練習も実践の作業につながる。こうした演習課題を繰り返しているうちに、要約の仕方も身に付いてくる。要約が上手くなると、文章の処理が一段と速くなり、読書の量も増えて知識がたまると共にアレンジも簡単になる。

3　要約の準備

新聞記事を例にして要約の方法を説明していく。天津で担当した新聞講読や日本語の作文のクラスでは、特に学期の後半に要約のトレーニングを試みた。日本語学習歴が 2、3 年ということもあり、新聞記事を使えば、一般的な知識もさることながら日本の事情にも通じるようになる。文章を処理する際の作業単位は、先にも述べた通り段落がよい。

新聞記事の形式段落は、通常 3 つ 4 つの文からなっている。よい段落の条件とは、①長さを工夫する、②段落内の文を結びつける語句が正しく使用されている（例、接続語、指示語、テーマ・レーマ）、③全体の文章と段落に何らかの関係がある、④中心文があることである。新聞記者も当然こうしたことを念頭に入れて記事を書いている。また、段落の変わり目の目安として、①時間や場所が変わる。②人物や事件が変わる、③立場や観点が変わる、④会話文の話し手が変わる、⑤事柄や考えが変わるときが考えられる。

（王/山鹿 2004）

そこで、段落の中からキーワードやそれを含む中心文を探して、各段の要約文をまとめながら、最後に全体の要約文に仕上げる練習を繰り返す。字数制限についてはどうだろうか。この場合、各段落を要約してから複数のものをまとめて意味段落にする。そして、2 つ 3 つの意味段落をまとめて、字数の範囲内で要約文を完成させる。その際にも一応 5 W 1 Hを使って整える。

どのことばについてもこうした方法で要約文を作ることができる。しかし、繰り返してトレーニングをしないと、限られた時間でデータをまとめることはできない。一学期ぐらいは我慢してトレーニングを続ければ、要約作業のコツもつかめてくる。

中間テストを挟んで学期の後半は、日本の全国紙の中から最新のニュース記事を選んで、こうしたトレーニングをしている。教材の記事に比べれば、もちろん内容は難しくなる。教材は、学習者が理解しやすいように編集してあるからだ。そのため、ここからが本格的なトレーニングになる。そのため、テーマ・レーマのトレーニングをウォーミングアップとして試してみよう。

【問題】

次の文のテーマとレーマを考えながら、どの順番に並べるのがよいか考えてみよう。

（1）野田首相は昨日の国会答弁で、消費税の増税について具体的な日程に触れなかった。

（2）医療保険や国民の年金のことを考えると、消費税の増税は止むを得ない。

（3）消費税の増税は、国民の生活に大きな負担となりかねない。

（4）現在の消費税は 5% である。

（5）欧米諸国の消費税を見ると、10% 後半から 20% 前半の数字が並ぶ。

（6）選挙を睨みながらの調整になるのだろう。

（7）消費税については、もう長いこと話題になっている。

テーマ・レーマとは旧新の情報のことであり、ここでのテーマは消費税である。そこでまず（7）を取り上げる。次に消費税が話題になる理由を考えると、（2）がそれを受けている。現状を考えると、（4）には問題がある。数字だけを見ると日本は消費税が低い気にもなる。数字の例は（5）にあるが、数字だけではなく、その他諸々の問題が山積して

いる。そこで（3）が来る。日本のリーダーの見解には常に耳を傾けよう。（1）は（6）の理由にもなる。そこで次のように文章を組み立てていく。（7）（2）（4）（5）（3）（1）（6）の順にする。

消費税については、もう長いこと話題になっている。医療保険や国民の年金のことを考えると、消費税の増税は止むを得ない。現在の消費税は 5% である。欧米諸国の消費税を見ると、10% 後半から 20% 前半の数字が並ぶ。消費税の増税は、国民の生活に大きな負担となりかねない。野田首相は昨日の国会答弁で、消費税の増税の具体的な日程には触れなかった。選挙を睨みながらの調整になるのだろう。

4　要約の実践

朝日新聞の天声人語（2012 年 4 月 29 日）を使用して、上述の方法を試してみよう。

【問題】

エーゲ海のミロス島で、農夫がその大理石像を見つけたのは 1820 年の春。両腕は欠けるも、体重は右に、視線は左に向けて、額から伸びた鼻筋が美しい。フランスの外交官らの機略で、「ミロのビーナス」はルーブル美術館の至宝に落ち着いた。以来、原則として門外不出である。例外は 1964 年、日本への旅だった。手前みそながら、仏政府にかけ合い、東京と京都で展示を企てたのは朝日新聞だ。一点のみの美術展を、172 万人が訪れた。わが国にも誇れる女神像がある。こちらは純然たる祖先の作である。山形県で 20 年前に出土した「縄文のビーナス」が、土偶では四つ目の国宝に決まり、今日から上野の東京国立博物館で公開される。4500 年前、縄文中期の逸品だが、現代彫刻の趣がある。国宝に推した文化審議会は「土偶造形の一つの到達点」と評した。縄文人（びと）からの贈り物と喜ぶのは、所蔵する山形県の吉村美栄子知事だ。「豊穣の祈りや再生の意味がある土偶が国宝となり、東北の再生にもつながる」と。ミロのビーナスの倍の歳月を知り、渡航歴はすでに本家をしのぐ。フランス、中国、ドイツ、英国をめぐり、縄文文化の豊かさを伝えてきた。文化使節としての実績は国の宝にふさわしい。素焼きの立像に向き合えば、大胆な捨象の美を思うはずだ。次いで土の香り、祝祭のさざめきだろうか。じんわりと、五感に太古がこみ上げる。時をせき止めて、縄文の匠を守り通した国土に、改めて感謝したい。（朝日新聞天声人語 2012/4/29）

【要約の手順】

1 この文章を 4 段落（起承転結）に分ける。

2 段落毎にキーワードを 6、7 個探す。

3 段落毎に中心文を探す。

4 中心文を使用して、その段落を要約する。5W1H も考えること。キーワードとキーワードを助詞や動詞でつないでいく。

5 4 つの要約文を一つにまとめて全体の要約文にする。テーマ・レーマも考慮すること。

【手順 1】

第 2 段落の始まり

わが国にも

第 3 段落の始まり

縄文人から

第 4 段落の始まり

素焼きの立像

【手順 2】

第 1 段落のキーワード

エーゲ海のミロス島、1820 年、ミロのビーナス、ルーブル美術館の至宝、1964 年、日本への旅

第 2 段落のキーワード

女神像、山形県、20 年前、縄文のビーナス、国宝、土偶造詣

第 3 段落のキーワード

縄文人からの贈り物、吉村美栄子知事、豊穣の祈り、東北の再生、渡航歴、文化施設

第 4 段落のキーワード

素焼きの立像、捨象の美、祝祭のさざめき、土の香り、五感に太古、縄文の匠

【手順 3】

第 1 段落の中心文

「ミロのビーナス」はルーブル美術館の至宝に落ち着いた。

第 2 段落の中心文

山形県で 20 年前に出土した「縄文のビーナス」が、土偶では四つ目の国宝に決まった。

第 3 段落の中心文

縄文人からの贈り物と喜ぶのは、山形県の吉村美栄子知事だ。

第 4 段落の中心文

素焼きの立像に向き合えば、じんわりと五感に太古がこみ上げる。

【手順 4】

第 1 段落の

要約文

1820 年にエーゲ海のミロス島で発見された「ミロのビーナス」はルーブル美術館の至宝であり、原則として門外不出だが、1964 年に一度だけ日本で展示されたことがある。

第 2 段落の

要約文

20 年前に山形県で出土した「縄文のビーナス」が土偶では 4 番目の国宝に決まった。その理由は、土偶造詣の一つの到達点だからである。

第 3 段落の

要約文

「縄文のビーナス」には豊穣の祈りや再生の意味があり、東北の再生にもつながると喜ぶのは、山形県の吉村美栄子知事。渡航歴は、すでに文化使節としての実績にふさわしい。

第 4 段落の

要約文

素焼きの立像に向き合えば、捨象の美や土の香り、祝祭のさざめきを感じることだろう。じんわりと五感に太古がこみ上げてくる。縄文の匠に改めて感謝したい。

【手順 5】

1820 年にエーゲ海のミロス島で発見された「ミロのビーナス」は、ルーブル美術館の至宝であり、原則として門外不出だが、1964 年に一度だけ日本で展示されたことがある。女神像は日本にもある。20 年前に山形県で出土した土偶は、「縄文のビーナス」と呼ばれ、この度国宝に決まった。土偶造詣の一つの到達点というのがその理由である。「縄文のビーナス」には豊穣の祈りや再生の意味があり、東北の再生にもつながると期待される。素焼きの立像に向き合えば、捨象の美などがじんわりと五感に伝わってくる。時をせき止めて縄文の匠を守り通した国土に改めて感謝したい。

5　要約から速読へ－脳のトレーニング

「読む・書く」に関する効果的な学習方法は、クラスの内容を折に触れて自分でも実践してみることである。予習の段階で記事を読みながら段落ごとにキーワードを検出して、上述の方法で要約文を作ってみる。キーワードの検出が上手くできればしめたものだ。先生が黒板に書くものと比べてどこが異なるのかをクラスの中で確認して、帰宅してから今一度復習してみる。こうした単純な作業の繰り返しが文章を素早く処理するための肥やしとなる。

読みを遅くしてしまう原因は、一字一句読んでいたり、音読をしているからだ。やはり文章は段落を単位にして段落全体を捉えるように黙読すると速く読めるようになる。これは翻訳するときのように一文一文を確認しながら読む精読とは異なり、全体の内容がイメージできればよいという意味である。

例えば、新聞であれ小説であれ、読みながらテーマやあらすじがつかめるように工夫

していく。そのためには、入力となる新聞記事に対して記憶として蓄えている知識を速やかに出力しなければならない。これもよく言われることだが、日本語の場合は、漢字と平仮名のうち漢字に注目すれば速読に近づいていき、英語の場合は、名詞や動詞といった内容語に注目して、冠詞や代名詞のような機能語はさっと読むと、速読らしくなっていく。

誰もが思う速読のトレーニングは、1 分間にどれだけの量が読めるのかとか 1 ページを読むのに何秒かかるのかを測定することである。速く読めるようになるには、キーワードを拾って内容が理解できればよいのであり、そうなれば、読みの時間はかなり短縮することができる。

いずれにせよ、キーワードの検出や要約のトレーニングがワーキングメモリーの強化につながり、推敲や表現力の強化が言語中枢の働きに影響を与えることを学生に意識させるとよい。教案を脳トレまで持っていくことは、語学の教師がするべきことである。

6　今後の課題

上述したように、要約の練習は、一時記憶として注目を集めているワーキングメモリーの強化やビジネスの実践につながることから、作文の課題に入れるとよい。要約ができるようになると読書のスピードが速くなるため、自ずと読書の量が増えて集中力も身についていく。現実的に「読み書き」のトレーニングをしていくと、感覚脳の右脳と言語脳の左脳を結ぶ脳梁と呼ばれる神経線維が強くなり、両方の脳のバランスがよくなっていく。

また、ライティングの幅を広げるために、日本語の技術文への対応を検討するとよい。縦型人間ではなく、文理・共生が調節できるような人材を育成することも教育の現場で心掛けていく必要がある。しかし、技術文の翻訳といっても、翻訳の作業単位は語学力と分野の背景が組になるため、理系のとある分野の入門から少しずつ勉強するとよい。単純に文系で比較というと、A と B から A’ と B’ を出す作業のことである。一方、文理・共生とは、A と B から異質の C を出す作業のことである。異質の C に橋が架かるとマクロ的な調節となり、シナジーらしくなっていく。

【参考文献】

内田安伊子/紀子：構成・特徴・分野から学ぶ新聞の読解,　スリーエーネットワーク, 2008

王秀文/山鹿晴美編：　用日　写作教程,　外　教学与研究出版社,　2004

岡田尊司：統合失調症,　その新たなる真実,　PHP 新書,　2011

金井良太：個性のわかる脳科学,　岩波書店,　2010

佐藤泰正：頭のいい速読力,　青春出版社,　2010

花村嘉英：从　知　言学的角度浅析　迅作品－魯迅をシナジーで読む, 華東理工大学出版社,　2015

和田秀樹：要約力,　かんき出版,　2003

第三章　『訳す』

中日翻訳の高速化－比較言語学からの考察

【要旨】

ビジネス翻訳の世界では、時間の制約が厳しいこともあり、作業にスピードが求められる。しかし、翻訳作業が速くても、語学の知識だけでは品質の管理は難しい。テキスト処理について議論する前に、まず、中国人と日本人の思考様式の違いについて考える。次に、作業単位を単文から段落に広げて、中日の言語上の違いを考察しながら、高速化のための翻訳技法について説明する。最後に、語学力と共に必要となる背景知識の調節法についても一言触れる。

【キーワード】

思考様式、語順と推論、中日翻訳の高速化、背景知識の調節法

1　中国語と日本語の違いを把握する

言語の研究とは、ことばの習得とその運用を対象とし、それぞれに理論と実践がある。言語の習得の場合は、理論も実践も概ね単文で研究される。一文一文が入力と出力となって連鎖をなすという考え方があるからだ。一方、運用論は、話しことばも書きことばも対話、段落そしてテキストが研究対象になる。本論では、中国語と日本語を比較するために語順を取り上げる。語順には、言語の習得にも運用にも欠かせない重要な問題が含まれているからだ（例えば、発想の問題）。

言語には、語順が自由なものと固定のものとがある。しかし、大半はその中間に位置する。前者の代表としてはラテン語が、後者の代表としては中国語があげられる。日本語は、語順がかなり自由な言語である。また、ドイツ語やオランダ語などのゲルマン系の言語も類型論的には部分的に語順が自由な言語と見なされている。周知の通り、中国語の語順は SVO であり、日本語やドイツ語は SOV の言語となる。また、文法関係を表す際、中国語は語順を頼りにするが、日本語や韓国語は助詞（てにをは）を用いる。これが中国語は孤立語で、日本語は膠着語と呼ばれる理由である。中国語の語順は確かに英語に近いが、語尾変化や活用はない。日本語のような SOV 型は世界の言語の約半分、

英語や中国語などの SVO 型は 35 %、ポリネシア語などの VSO 型は 10 %余りを占めるという。

こうした語順の違いは、言語的な発想にも影響を及ぼす。中国語は、主語のすぐ後に述語が来るので、話し手や書き手の意図が肯定なのか否定なのかは、すぐに明らかになる。一方、日本語は、述語が最後に来るため、話し手や書き手の意図が肯定なのか否定なのかは、最後まで行かないとわからない。（山本 2002）そのため、中文から日文へ翻訳をする場合には、語順のみならず推論も重要なポイントになる。

発想とは、抽象から抽象へと進む推論であり、一般的に発見とか発明に見られるものだ。しかし、文章を書く際にも、語順とか段落の作り方または話の流れに言語上の小さな発想があると考えられる。発想は文系と理系とで異なるし、組み立て方やまとめ方もそれぞれ違う。これを調節するためにシナジー・共生がある。それ故に、シナジーこそが発想の原点と思われる。

その他の推論としては、演繹と帰納が知られている。演繹は、抽象から具体へと進み、帰納は、具体から抽象へと進んでいく。例えば、演繹は、アスリートが試合に備えてイメージトレーニングをする際に使用され、帰納は、語学の練習の中で単語や表現を入れ替えながら、ある場面のイメージを作る際に使用される。つまり、これらの 3 つの推論は、三角形をなして人間の脳の中をものすごい勢いで回っている。

- - - - - -

注 1　中国語と日本語を比較するテーマとしては、その他に複合語、接辞添加、文法要素の内部変容、重複及びアクセントの相違などが考えられる。複合語は中日両語に見られるが、その数は中国語の方が断然多い。また、接辞添加は、日本語には多く中国語には少ない。文法要素の内部変容とは、例えば、活用のことで、日本語には動詞や形容詞にその例があり、中国語にはない。重複の過程は、双方に見られる。アクセントは、双方ともに高低アクセントだが、中国語の四声ほど日本語のアクセントは強くない。（Sapir 1998、花村 2015）

2　翻訳の作業単位

単文で翻訳のトレーニングをすることに確かに意味はある。例えば、単文を訳すことによって、中日の品詞の違いについて確認ができる。しかし、一文ごとの翻訳では、一つの中文が複数の日本語に訳出されることがある。

（1）你　我安静一会儿，好　？（　訳日精　教程）

（2）私を少し一人にさせてよ。いいですね。

（3）私を少し一人にしてよ。いいですね。

（1）の和訳は、（2）でも（3）でもよい。しかし、（1）が段落の中に入ると、そうはいかない。文法に則して使役に訳すのか、それとも普通の平叙文で訳すのかを読み易さという観点から考える必要がある。文法通りに訳してしまうと、かえって読みにくくなることがあるからだ。読み易すい日本語とは、誰もが一読でわかるようなやさしい表現を用いた和文のことである。推敲する際にも、この点を考えるとよい。小説やエッセイを訳す時でも、段落に書かれた場面のイメージが浮かぶように訳していく。

外国語の学習者は、とかく文法を気にする傾向にある。しかし、表現法を問う場合には、あまり文法を気にせずに、こうも言えるしまたそうも言えるといった感覚でことばを処理していくとよい。作業単位を段落にすると、当然量が増えるわけだから、量が問われる翻訳作業に対しても抵抗がなくなると思う。そのため、作業単位を段落にすれば、表現の読みやすさを追及しながら、量にも対応できるといった効果が期待できる。

- - - - - -

注２　中日の品詞の違いを比較すると、翻訳をする際に役に立つ。例えば、中国語の介詞と連詞は、日本語の前置詞や接続詞になり、中国語の助詞は、品詞ではなく接辞と呼ばれ、単語や連語の後に付いて補助的な働きをする（例、構造助詞〈的、地、得〉、時態助詞〈　、着、了〉など）。面白いのは、数量詞の用法である。分数と倍数に習慣的な言い方の違いがある。例えば、「水　的水　少了 3 分之 2」（ダムの水が 3 分の 1 になった）という表現では、中国語の場合、減った水の量が問題になり、日本語の場合は、残った水の量が表現される。（山本 2002）

3　中日翻訳の高速化－単文の場合

3.1 連動式述語文

翻訳者としての実務経験からいうと、翻訳作業にはスピードが求められる。言い方はともかくとして、翻訳作業の究極の目標は、同時翻訳だと思う。無論、こうした言い方はない。しかし、限られた時間でデータをまとめる仕事であることに疑いはない。そこで目標を「中国語の語順のまま和訳する」ということにする。中国語の語順に沿って和訳すれば、訳抜けはなくなるし、同時翻訳といいたくなるのもわかるだろう。幾つかその例を見ていこう。

二つ以上の動詞または動詞句が連用されて、意味上ある種の関係が保たれている構文のことを連動式の述語文という。（山本 2002）

（4）王先生扳着手指　算今年的小麦　量。（王さんは指折りして、今年の小麦の出来高を

見積もった。）（　訳日精　教程）

（4）の場合、左から右へ中国語の語順に従って、「・・して・・する」と和訳することができる。そして、連用される動詞の意味関係は、前の動詞が後の動詞の動作に関する方式や手段を表している。意味関係として前の動詞が原因を表し、後の動詞が結果を表す場合もある。

（5）老　得肺　核住了院。（趙さんは肺結核で入院した。）（　訳日精　教程）

但し、「有」がある場合には、後の動詞句が前の動詞の目的語を修飾するように訳すとよい。

（6）你有　　房子　？（君は家を買うお金があるの。）（　訳日精　教程）

つまり、目的語は「が」を用いて主語にして、「・・する・・がある」と訳せばよい。

3.2　兼語式述語文

同様に、二つ以上の動詞または動詞句が連用されて、動詞 1 の目的語が同時に動詞 2 の主語にもなると、動賓連語と主述連語が結び付いた兼語式述語文という構文が作られる。（山本 2002）

（7）　　你把　本　送来的？（誰があなたにこの本を届けさせたの。）（小学館中日辞典）

（8）友　，使　些来自不同国度的朋友　相聚在一起。（友情がこれらの異なる国から来た人々を一つにしている。）（　訳日精　教程）

兼語式述語文は、通常、前の動詞が使役の意味を持ち、後ろの動詞が目的や結果を表す。この種の文も、中国語の語順のまま和訳ができそうだ。さらに、連動式と兼語式が連用される場合もある。

（9）公司　我乗　机去北京迎接客人。（会社は私に飛行機で客を迎えに北京に行くように言った。）（　訳日精　教程）

（9）の構成は、前の動詞句にあたる「飛行機に乗る」が後ろの動詞句「北京に行く」の手段になるため、まず連動式の述語文を作り、さらに前の動詞が使役の意味を持ち、後ろの動詞がその目的を表しているため、兼語式の述語文にもなる。そのため、連動式と兼語式が連用されている。

3.3 複数に訳出される例

中国語の単文が複数の日本語に訳出される例も見てみよう。一般的に中心語を補足的に説明する補語の中で、程度の補語と呼ばれる表現は、その補語が表す内容を程度とすることも可能だし、結果として理解することもできる。

（10）黒板上的字小得几乎看不　。（　訳日精　教程）

（11）黒板の字がほとんど見えないほど小さい。（程度）

（12）黒板の字が小さくてほとんど見えない。（結果）

（11）（程度で訳す場合）は、前提として何か目安があって、それよりも大か小かが問題になる。一方、（12）（結果で訳す場合）は、中国語の語順に沿って訳すことができる。その場合、結果の対語に当たる何かの原因を受けていると考えればよい。程度と結果の訳し方の違いは、単位を段落まで広げなくても、その文の前後関係ぐらいで対応できそうだ。

文の前後関係から見ると、状況語の訳し方も例になる。中国語では、主語と動詞の間に時間や場所を表す状況語が来る。しかし、日本語では、状況語が文頭でも主語と目的語の間でも、あるいは目的語と動詞の間に置かれても、文法上特に問題はない。もちろん、日本語でも状況語は述語を修飾するわけだから、これらの二つの成分は近い方がよい。

（13）　着急，我立刻打　　告　　。（　訳日精　教程）

（14）慌てるなよ。すぐに電話して彼女に話すから。

（15）慌てるなよ。すぐに彼女に電話して話すから。

（16）慌てるなよ。彼女にすぐに電話して話すから。

（17）慌てるなよ。彼女に電話してすぐに話すから。

（18）慌てるなよ。電話してすぐに彼女に話すから。

（19）慌てるなよ。電話して彼女にすぐに話すから。

（14）、（15）、（16）、（17）、（18）、（19）は、いずれも和訳として成立する。しかし、どの訳が一番よいかは、文脈に依存して初めて決まる。

4　中日翻訳の高速化－段落の場合

次に、作業単位を段落に広げて、中国語の語順のまま和訳するという上述した方法を試してみよう。その際、注意したいのは、述語の位置とか専門用語そしてテーマ・レーマの関係である。なお、日本語の新聞の場合、文体は常体の「である」を使用する。

（20）　内　　，行　无法接　住宿，但是将用大巴接送灾民前来洗浴，并　置　　的医点和休息　所　灾民　　。　一　活　将从本月 26 日起到 4 月底期　　行。（人民日報）

（21）宮内庁は、御用邸に宿泊することはできないが、大型バスを使って被災者を浴場まで送迎し、さらに専門の診療所と休憩所を設けて被災者を診察すると述べた。この活動は、今月 26 日から 4 月の末まで行われる。

（20）と（21）を見る限り、中国語の語順に沿って和訳ができそうだ。但し、述語の位置については注意が必要である。上述したように、中国語の述語は主語のすぐ後に来るが、日本語は最後に来る。また、専門用語としては、行宮はここでは皇室用の別荘であるため、御用邸と訳すとニュアンスが伝わる。

テーマとレーマについて見てみよう。テーマとは主題のことであり、文において伝達の対象を表す既知の情報のことをいう。また、レーマとは述題のことであり、文において伝達の内容を表す新しい情報のことをいう。（20）の場合、最初の文のテーマは「行宮」で、それに続く「无法接　住宿」以下がレーマになる。次の文は、このレーマを受けた「　一　活　」がテーマになる。つまり、段落の中では、旧と新の情報が連鎖をなして流れている。テーマとレーマの関係を把握して、述語の位置や専門用語に注意すれば、とりあえず中国語の語順に沿ってニュース記事を和訳することができると思う。

付加的なものだが、覚えておくと便利なテクニックがある。それは、外来語のために使用するカタカナ表記である。日本語の新聞記事には、英語のみならず多くの言語からの外来語が氾濫している。そのため、外国語の新聞を和訳する際にカタカナ表記が入る

と、より日本語らしい訳になる。

- - - - - -

注３　日本語の内部にある言語体系の中で、最も特徴があるのは、文体の対立である。文体の対立とは、ことばを使う場面の違いにより生まれ、普通は口語体と文語体が連想される。他の言語にも見られるが、日本語の文体の対立は、その差が激しいことに注意が必要である。（金田一 1988）例えば、文語体でもジャンルによる文体の違いがある。新聞記事の場合は、常体（である体）を使うが、放送原稿の場合は、敬体（です、ます体）で書かれる。（山本 2002）

5　分野の背景知識の調節法

一般的に、翻訳の作業単位は、言語の知識と分野の背景知識との組み合わせである。例えば、私の場合は、ドイツ語と文学とかドイツ語ないし英語と技術文という組み合わせになる。そのため、実務に関してそれなりに工夫が必要であった。文理の相乗効果のことをいうシナジー・共生の調節が大変に難しいからだ。

翻訳者として 10 年余り仕事をしながら、この問題について試行錯誤を繰り返してきた。それは、文理の土台を作りたかったからである。縦型の伝統の技は、文系も理系も比較の研究になる。一方、横の調節は、シナジーの研究である。その際、文系が専門であれば文系が主で理系が副、理系が主であればその逆になる。また、文系の基礎は文献学であり、理系の基礎は計算と技術といえる。

人文科学が専門の場合、文理の組み合せは、機械翻訳（ソフトウェアとハードウェア）、文学とデータベース、文化と栄養そして心理とメディカルなどになる。計算文学を研究するためには、もちろん理系の文献も文学分析に使えることが前提になる。毎日のように技術文の翻訳作業に従事しながら、こうした「理系のための基礎作り」を心掛けていた。（「計算文学入門－ Thomas Mann のイロニーはファジィ推論といえるのか？」を参照すること。）

技術文の翻訳には、翻訳ソフトが付き物である。限られた時間で大量のデータをできるだけ正確にまとめなければならないからだ。周知のように、コンピューターのマニュアルでは、文体や用語もさることながら、類似の表現や決まり文句または同一文が繰り返して使用される。そこで、翻訳ソフトを使用して翻訳メモリーを作りながら、作業を行うことが慣例になっている。私の場合、このようにして、文系の言語文学と理系の情報科学の背景知識を調節してきた。

6　まとめ

中日翻訳の高速化というテーマで、言語の知識や分野の背景知識の調節法について考察した。上記以外にも翻訳の高速化を考える上で覚えておくとよいテクニックはあるだ

ろう。その点については、他の外国語との組み合わせを考慮に入れながら、極端に対照言語の研究にならないように調節していきたい。例えば、中国語を対象にして述べたことは、日本語に近い韓国語にも適応できると思われる。日本語と韓国語は、語順がほぼ同じで膠着語を表す「てにをは」に相当する語彙もあり、構文上双方に大きな違いはない。韓国語は、日本人にとってハングル文字と発音を覚えれば、理解できることばである。

翻訳者としてさらにレベルアップするには、言語の組み合せを増やすこともさることながら、分野を開拓していくことも必要である。そう思えば翻訳作業も一生の仕事になっていく。

【参考文献】

金田一春彦 日本語・上下, 岩波新書, 1988

W. v. Goethe イタリア紀行, 花村嘉英監修共訳, バベル出版, 2010

Ｅ. Sapir 言語－ことばの研究序説, 安藤貞雄訳, 岩波文庫, 1998

花村嘉英 計算文学入門－ Thomas Mann のイロニーはファジィ推論といえるのか？ 新風舎, 2005

花村嘉英从　知　言学的角度浅析　迅作品－魯迅をシナジーで読む, 華東理工大学出版社, 2015

山本哲也、 岩、于敬河　　日精　教程, 大　理工大学出版社, 2002

第四章　『日本語教育を通じてシナジー論を考える』

人文科学のための人材育成ついて

【要約】

人間を総合評価する際に社会系や理系の人たちは、自分の専門とシナジーによるＬ字で調節をしている。一方、人文系の人たちは、概ね、縦の専門性を中心にして評価を出している。こうしたギャップを埋めるためにどういうことができるのだろうか。人文の基礎は文献学であるため、技術文の翻訳を横に置くことはできる。そうすれば実績をＬ字に調節していることになる。また、テーマをＬに調節する方法として、組のアンサンブルを検討している。この辺が問題解決の鍵になりそうだ。

【キーワード】

Ｌの調節、産業翻訳、組のアンサンブル、テキスト分析

1　問題提起

昨今、グローバルなネットワークとして世界中から日本語教育が注目されている。日本語教育関連の学会に参加すると、注目度が肌で伝わってくる。研究発表やパネルの討論会などは多岐にわたり、どの分野でも活気に溢れている。参加者を見ると、人文、社会のみならず理系を専門とする人たちもいて、国籍も多様である。

現状ではどちらの学会でも参加者一人ひとりにスコアを付けている。そのため、発表の様子もさることながら、準備も結構大切になる。発表後の質疑応答も聞き手に伝わるように説明するとよい。そうすれば、おのずとスコアは付いてくる。ところがここで思うことがある。

人物評価をする際に、社会系や理系は、縦の専門と横のシナジー・共生が調節できるようにＬ字に目安を置いている。専門性を謳う競争はどの分野にもある。社会系と理系の組み合わせは実務にもつながることから、それぞれが横も調節できるようにマクロの評価項目を設けている。（例えば、社会とシステム、法律と技術、経営と工学、法律と医学など。）評価項目の中にはエキストラの項目もある。それはそれでよい。ここでの問題は、人文の人たちにこうしたＬ字の評価がそもそもないことである。

2　原因は何か

人文科学の伝統の技は、語学文学とか文化思想などである。また、ことばごとに分かれていて、専攻科目もたくさんある。人文の関係者が平時に取り組む教授法は、誰にとっても共通の実務である。教授法の周りに自分の専門分野があり、副専攻として専門以外にも通じたことばがある。しかし、実績を見るといずれも人文科学のもので、横に目安はない。では、どうすれば横に目安を置いて、評価を出すことができるのだろうか。

ひとつは、人文の人も横に実務を作るとよい。例えば、夏休みなど時間があるときに、産業翻訳に取り組むのも悪くはない。人文科学が専門の人でも機械翻訳に興味がある人もいるだろう。英語の場合、関係者も資料も多いことから、大学人でも産業翻訳に貢献している人がいる。日本語教育学会にもビジネス日本語の分科会がある。そういうところで翻訳作業をしていて気づいた問題を解決するための工夫などを自分なりにまとめて発表するとよい。そうすれば、とりあえず実務を通してＬ字を作ることはできる。

英語以外の外国語が担当の人たちもそれぞれのことばの技術文を和訳してみるとよい。理系のエンジニアは、技術的なやり取りのためのツールとしてプログラミング言語を使用する。また、自然言語は英語を使用すればよい。しかし、中には英語以外のことばにも通じている人たちがいて、そういう理系の人が英語以外の技術文を翻訳している。

英語以外が持ち場の人文科学の人たちも理系の人たちに分野の知識を教わりながら技術文の翻訳作業をすればよい。そうすれば、人文と理系でことばの問題もあるが、分野を調節するために何が必要なのかを考えることになる。こうすると翻訳の表現がうまくなるとか仕事がはかどるといった誰もが思うことでよい。例えば、翻訳ソフトを使用することも作戦である。民間人との情報交換もけっこう役に立つ。

3　問題解決に向けてできること

こうしたＬ字の文献処理ができるようになるとよいことがある。テキスト分析を例にして説明していこう。テキスト分析といった場合、文系でも理系でも受容を思い浮かべる。文系は文献学をベースに解析をして作品のイメージを作り、理系は計算、技術、実験をベースに作品のモデルを作っていく。ここからが問題である。文から理への横の調節をＡとＢから異質のＣという流れとしよう。その場合、Ａは人文科学、Ｂは認知科学そしてＣは脳科学になる。学会や研究会などで専門家の話を聞いていると、人文の人はＡとＢの塊を作り、理系の人はＢとＣの塊を作る。なぜか対峙してしまう。これが問題である。

人文から理系に向けた研究方法を何か工夫して、何とか異質のＣに辿りつくようにしたい。どうすればよいのだろうか。私の場合、作品を解析したイメージの中にいずれかの組を作る。例えば、鴎外の歴史小説を分析して内から外への思考と外から内への思考という組を考える。これはＡである。それから人間の信号の伝わり具合を想定して、この組み合わせに適した脳科学のポイントを探る。これはＢである。そして最後に、動物一般が生得的に持っている本能のことをいう情動に近づいて行く。情動の起因には諸説

があるが、その一例として内的要因（創発）と外的要因（誘発）が挙げられる。情動とは、例えば、喜怒哀楽に関する瞬時の思いである。また一方に、人間特有の感情といわれる人を敬う継続的な思いがある。鴎外の歴史小説を情動や尊敬の念といった感情を通して考察しながら、Ｌ字の調節によるシナジーのメタファーを考えてみよう。

4　組のアンサンブル

文理融合といえば、社会とシステム、法律と技術、経営と工学、ソフトウェアとハードウェア、法律と医学、心理学と医学などの組み合わせが思い浮かぶ。しかし、人文科学を専門とする場合は、シナジー論についてどのようなアプローチができるのだろうか。

これまで文理シナジー学会や中国の学会を通して、文学作品を対象に受容の読みとシナジー・共生の読みを考えてきた。前者は読み手の脳が問題になり、後者は作家の脳が問題になる。比較とは一般的にＡとＢからＡ’とＢ’を出す作業である。一方、共生とはＡとＢから異質のＣを出す作業である。そのために、ＡとＣをメタファーの関係としＢをその写像と考えて、「シナジーのメタファー」を考えてきた。一つは「トーマス・マンとファジィ」、また一つは「魯迅とカオス」である。現在は、「鴎外と感情」も視野に入れている。

シナジー論にも多くの評価項目がある。文と理、主の専門と副の専門、語学文学、理論と実践、言語情報と非言語情報、東西（例、漢学と洋学）そしてボトムアップとトップダウンなどだろうか。とにかく全てを組で考えるとＬ字の調節になっていく。また、調整の軸として奥に脳科学を置く。

計算文学のモデル

挿入

現在、魯迅と鴎外を比較しながら、鴎外についてシナジーのメタファーを考えている。日本語でも理系の資料を処理すると、これが横の調節をするための文献学の基礎になり、実績となるため、技術文の翻訳作業をお薦めする。日本語の技術文については、下記の参考文献の中の「人文科学から見た技術文の翻訳技法－英日・独日・中日」が参考になる。Ｌ字の調節を濃くするために、比較と共生の実績を増やしていきたい。例えば、欧米の言語とアジアの言語を比較しながら、東西の組み合わせを考えるのもよい。

シナジーのメタファーを作る際に難しいのは、Ｂから異質のＣに橋を架けるところである。Ａを人文、Ｂを認知、Ｃを理系の専門分野とすると、ＡからＢまでは言語の認知により出力のイメージができる。次に、これを入力として情報の認知のイメージを組で考えてみる。これを繰り返すと、次第に橋が架かってくる。現状では情動にまつわる脳の活動に関心があり、関連文献を読んでいる。人文の人たちがＬ字を作るに当たり検討するべき組み合わせを一覧にまとめた。

人文科学のためのＬ字の評価項目

大項目　小項目　説明

翻訳　文系の資料　人文のみならず社会の資料も入門ぐらいは読む。

翻訳　理系の資料　はじめはチェッカーをやりながら、ソフトウェアを習得していく。理系の入門や機械翻訳をこなす。

テキスト分析　受容の読み　一般的な読みでよい。トーマス・マンならばイロニー、魯迅ならば記憶。そして森鴎外は情動と尊敬の念からなる感情とする。

テキスト分析　共生の読み　作家の脳の活動を探る読み。ＡとＢから異質のＣ。

語学力　言語の習得　教授法のレベル。

語学力　言語の応用　専門のレベル。また副専攻も文理で取り、使用言語を増やしながらＬの調節を心掛ける。

日本語教育の現場で、日本語学文学のみならず日本語の技術文も勉強の対象になるという説明をしてもらいたい。社会に出てビジネスで役立つような教案とか脳トレにつながる教案を作ることに意味がある。最初は、簡単なことから始めるとよい。シナジー論は時代のニーズである。目指しているのは、人文科学のための脳科学である。

5　鴎外の脳の活動は感情

「鴎外と感情」というメタファーについて、先ずトップダウンで考える。鴎外は、陸軍省の医務局に入り軍医として活躍する傍ら、作家としての才能を開花させる。軍での仕事は、上司からの指示命令によるものであるから、感情については、当然外的な要因による誘発が考えられる。一方、作家として活動している時には、内的な要因による創発が感情の源になる。

二木（1999）によると、感情には喜怒哀楽のようにどちらにも入るものがある。ここでは情動と脳の活動の関係を考えるために、喜怒哀楽の表現を見ていこう。文学の研究を少しでも科学にするためである。鴎外の歴史小説にも内的要因と外的要因による思考が見られることは先にも触れた通りであり、この点を接点に創発が見られる作品と誘発が見られる作品を考察する。方法は、ＡＢのイメージから感情と行動という組を作り、Ｃ

の人工知能の組と合わせていく。

5.1『安井夫人』（1914 年）

①誘発の作品として取り上げる『安井夫人』には、幕末の話でも現代に通じる日本人女性の夫への献身が描かれている。日向の国宮崎で藩に任用された父の影響から書物を読んで育った仲平は、小さいときに疱瘡を患い大痘痕となって右目が潰れた。そのため偉くなるとも不男とも噂された。彼の青春時代は、どこかに負い目を感じるものだった。

②大阪と江戸で修業を終えた仲平に安井家で嫁を取ることになった。父が思案した娘には断られたが、その妹佐代からよい返事をもらう。佐代からの希望である。しかし、器量よしで小町といわれるほどの美形で年も離れていて、なんとなく仲平とは不釣合いである。

③仲平と父が講壇に立つ学問所の書生たちに対しても、繭を破った蛾のように内気な性格を脱して、佐代は天晴れな夫人になる。自分の欲求を満たしてくれるものに接近行動を示す佐代の情動であろう。江戸を出ること二度三度、仲平は四十にしてようやく世間から学殖が認められる。妬みから容姿に纏わる陰口が聞こえてくる。しかし、佐代は女の子を三人出産し、陰口など何処吹く風である。佐代にも当然母としての喜びの情動が生まれる。仲のよい知人からは、無遠慮なお世辞が聞こえてくる。先生に仕えるわけだから、ご新造様は先生以上に学問をしていると。

④佐代は三十を過ぎて男子を二人産んだ。母としての自覚と夫への献身が増々強くなり、仲平は大儒息軒先生として天下に名を知られる。時代は、ペリーの浦賀来航と尊皇攘夷である。その折、大井伊直弼が桜田門外の変で倒れる。そして佐代は五十一で他界する。

⑤佐代とはどういう女だったのか。美しい肌に粗服をまとい、質素な仲平に仕えつつ一生を終えた。佐代は夫に仕えて労苦を辞さなかった。夫に対する献身の気持ちが強い。これを外から内への思考とすると、佐代の脳の活動は誘発と考えられる。報酬として何物も要求しなかった。立派な邸宅に住みたいともいわず、結構な調度を使いたいともいわず、うまい物を食べたがりも面白い物を見たがりもしなかった。また物質的にも精神的にも何物も希求しないほど恬澹だった。

⑥佐代は何を望んだのであろうか。夫の出世であろうか。それでは月並みである。未来に向けて何かを望んでいたのである。それが何か識別できないほどに尋常でない望みで

あって、その望みの前では一切の物が塵芥のごとく卑しくなってしまう。恐らくそれは夫を敬う忠義の心、献身であろう。

上記第二章の論文「読む・書く」で説明した【要約の手順】に照合させる。

◇要約文を 4 段落（起承転結）で考える。①が起、②が承、③と④が転、⑤が結になる。

◇段落毎にキーワードを探す。②であれば、仲平、嫁を取る、佐代、美形で年も離れている、仲平とは不釣合いにする。

◇段落毎に中心文を探す。②の中心文は、「大阪と江戸で修業を終えた仲平に安井家で嫁を取ることになった。」にする。

◇中心文を使用して、その段落を要約する。できるだけ 5W1H も考える。キーワードとキーワードを助詞や動詞でつないでいく。

◇テーマ・レーマも考慮すること。例えば、「嫁を取る」が旧情報で、「佐代からよい返事」や「佐代からの希望」が新情報。

5.2『魚玄機』(1915 年)

①美人で詩をよくした魚玄機。生まれは長安で、五歳の頃には白居易の詩を暗記し、十三歳で七言絶句を作る。十五歳になると、魚家の少女の詩として好事者に写し伝えられた。

②この短編には女の秘密が記されている。それを内から外への思考とすると、脳の活動は創発となろう。容貌も美しくなった十八歳の時に、三名家の一人温の友人で白皙美丈夫な素封家の李億と相見し、聘を受け入れた。しかし、障害があった。李が近づけば玄機は回避し、しいて迫れば号泣する。李は遂げぬ欲望のため、恍惚として失することもあった。また、人間関係が複雑である。李には妻がいる。玄機が妾であることが分かり、夫妻は反目する。こうした因縁が道教の女道士にはあった。

③美人で才能があると、負けず嫌いでわがまま性格になる。寝食を共にする修行中の道女士たちと心胸を披歴するが、揶揄や争いそして和睦もある。羨と妬が混じり合う。そ

うこうして、玄機の詩名は次第に高くなった。しかし、交友関係は長続きせず、ある道女士が失踪してから、十九歳になった玄機の態度は一変した。書を求められても笑語に移し、無学のものが来ると、侮辱を加えて追い返す。客と謔浪もする。灯の下で沈思して不安になって、机の物を取っては放下することもあった。

次第に偏った行動をとるようになる。人格（パーソナリティ）が気質（先天的な資質）と性格（後天的な環境条件）により他人を巻き込み、派手で劇的になっている。

④貴公子と共に楽人陳某が玄機の所に来た。体格が雄偉で面貌は柔和な少年で、多くを語らず終始微笑を帯びて玄機の挙止を凝視していた。玄機は陳に詩を寄せ、陳は玄機を頻りに訪問する。年の月日が経った。緑翹という十八歳の婢がやって来た。陳が緑翹を揶揄するのを見たが、玄機は意に介さない。緑翹を女子として目していなかったからだ。自分は賞賛に値するだけの優れた人間であると信じ込む特権意識が伺える。

⑤二十六歳になった玄機は、眉目端正で浴を出たときには琥珀色に光っていた。緑翹は犬に似た顔で手足も粗大で、襟肘は垢や油で汚れていた。しかし、陳が次第に緑翹と語るようになる。玄機は、胸を刺されたように感じ、色を変じた。陳と緑翹との間に秘密があると思うようになった。

ストレスを感じ不安や心配が生まれ、それを上手く解決できない不安障害と気持ちや考えが上手くまとまらない統合失調症の境界で、パーソナリティ障害が生じている。

⑥玄機は書斎で沈思すると、猜疑は深くなり、忿恨は次第に盛んになった。緑翹の顔に侮蔑の色が見えたり、緑翹に接するときの温言のある陳の声が耳に響くようになる。玄機は甚だ陰険に看取し、扉の錠を下ろし、詰問した。怒りが生じ情動が生まれる。こうした創発は、人に攻撃的な行動を促す。緑翹が狡獪に思えて押し倒し、白状せよと叫んで緑翹の喉を締めた。手を放すと女は死んでいた。

利己的で相手の気持ちや迷惑を考えることも、社会の道徳習慣に従うこともできず、良心が欠如している反社会的なパーソナリティ障害である。

⑦観（仏教の寺に当たる）の後ろにある穴に緑翹の屍を落として土をかけた。初夏に訪れた客が涼を求めて、観の後ろに行くと、緑色の蠅が群がる場所があった。そこから緑翹の屍が見つかり、魚玄機が逮捕され斬に処された。情動でいうと創発が多く、心の病気でいうとパーソナリティ障害が見られ、執筆時の鴎外の脳の活動を感情と考えること

ができる。

『安井夫人』同様、上記第二章の論文「読む・書く」で説明した【要約の手順】と照合してみる。

◇要約文を 4 段落（起承転結）で考える。①と②が起、③が承、④と⑤と⑥が転、⑦が結になる。

◇段落毎にキーワードを 6、7 個探す。②であれば、女の秘密、十八歳の時、李億と相見、聘を受け入れ、人間関係が複雑、玄機が妾にする。

◇段落毎に中心文を探す。②の中心文は、「容貌も美しくなった十八歳の時に、三名家の一人温の友人で白皙美丈夫な素封家の李億と相見し、聘を受け入れた。」にする。

◇中心文を使用して、その段落を要約する。できるだけ 5W1H も考える。キーワードとキーワードを助詞や動詞でつないでいく。

◇テーマ・レーマも考慮すること。例えば、「聘を受け入れた」が旧情報で、「障害があった」や「遂げぬ欲望」が新情報になる。

6　まとめ

昨今、なにかとシナジー・共生という用語を耳にする。文にも理にも通じる人間を育成するにはどうすればよいのか。社会系や理系の場合は実務と関連があるために、横に目安を置いてもさほど抵抗はない。しかし、人文の場合はそこが違う。それではどうすればよいのか。語学文学の学会ではこうした議論は難しい。縦の専門性でよいからだ。そこで間口の広い日本語教育学会のようなところで、それぞれの系列の専門家が議論を重ねて育成マニュアルなどを作成すればよい。『日本語教育を通じてシナジー論を考える』ことが世の中に大きな貢献をもたらすと信じている。

【参考文献】

花村嘉英：計算文学入門-Thomas Mann のイロニーはファジィ推論といえるのか？ 新風

舎,　2005

花村嘉英：人文科学から見た技術文の翻訳技法－英日・独日・中日（レポート）,　上海外国語大学, 2015

花村嘉英：森鴎外の「山椒大夫」のＤＢ化とその分析,　中国日本語教学研究会江蘇分会, 華東理工大学出版社,　2015

花村嘉英：从　知　言学的角度浅析　迅作品－魯迅をシナジーで読む,　華東理工大学出版社,　2015

二木宏明：情動のメカニズムの探求,　理研 BSI ニュース,　1999

日本成人病予防協会監修：健康管理士一般指導員受験対策講座,　ヘルスケア出版, 2014

森鴎外：山椒大夫・高瀬舟・安部一族,　角川文庫,　1995

金岡照光：中国故事成語辞典,　三省堂,　2010

応用編　序章　『日本語教育を通してシナジー・共生を考える』

人文科学の研究者が取り組んでいるシナジー・共生のテーマとして、コーパスや機械翻訳が知られている。しかし、基礎編でも説明したように、文理を調節するための組み合わせは、他にも色々ある。例えば、ソフトウェアとハードウェア、法律と技術（特許）、法律と医学、心理と医学、文化と栄養、経営と工学、社会とシステム等。ここでは、筆者が取り組んでいるマクロの文学分析について話を進めていく。

マクロの評価項目を地球規模とフォーマットのシフトとする。こうすると、どの系列に属していても溢れる人がいないためである。人文科学で地球規模といえば、東西南北にことばや文学を比較する研究が思い浮かぶ。また、縦に柱を作っていく実績だけだと、結局は文系脳とか理系脳になってしまう。そのため、共生を交えてフォーマットをシフトすることにより、文が主で理が副になるようなＬのフォーマットを考える。人文科学以外の系列では、実務も交えてＬのフォーマットが日常である。

人文科学は、個人が個人の研究をすればよいため、縦に柱を作る。共生に取り組むにしても、文理の間にＴの逆さの認知科学を置いて、縦に 3、4 本柱を調節していく。しかし、そういうフォーマットでは、ブラックボックスを消すことができない。手つかずの系列がなくなるように、何か研究のポイントを探してフォーカスを置くとよい。そうすると、横のスライドがスムーズになり、シナジー・共生の組み合わせが増えてくる。

Ｔの逆さの認知科学の手法を崩して、縦に言語の認知を置き、その出力が今度は横に置く情報の認知の入力となり、何れかの数字や記号が出力になれば、Ｌのフォーマットができあがる。

以下で扱う論文は、基礎編と関連が取れるように、森鴎外の歴史小説群の中から誘発が強い作品（山椒大夫）と創発が強い作品（佐橋甚五郎）を題材にしている。それぞれＬのフォーマットに乗るようにストーリーを作り、リレーショナル・データベースでそのポイントが説明できれば、一応の結論が得られるという流れである。

作家の執筆時の脳の活動を探るというシナジーのメタファーに興味関心がある方は、是非、自分が好きな小説を使って考えてもらいたい。読んで思うという受容の作業とは異なり、人の目には見えないものが見えてくるという効果が期待できるからである。

第一章は、2014 年 11 月に南京農業大学で開催された中国日本語教学研究会江蘇分会で発表した研究であり、翌年の論集に掲載された論文に加筆している。

第二章は、データベースを作成してからデータを分析するには、組み合わせのみならずバラツキについても考察が必要になるため書き起こした研究である。内容について

も 2016 年 11 月に南京林業大学で開催された中国日本語教学研究会江蘇分会で発表している。

マクロの文学分析については、以下のようなサイクルを考えている。

【地球規模】

東西南北に、ことばや文学を比較する。森鴎外、魯迅、トーマス・マン（ドイツ)、ナディン・ゴーディマ（南アフリカ)。

【フォーマットのシフト 1】

Ｔの逆さの認知科学を崩して、縦に言語の認知、横に情報の認知というＬのフォーマットをイメージする。

【フォーマットのシフト 2】

Ｌのフォーマットのストーリーを作る。縦の出力が横の入力になり、それぞれが組になるように調節する。

【フォーマットのシフト 3】

リレーショナルなデータベースを作成する。それぞれのカラムを説明し、作成後、組み合わせやバラツキについて考察する。

【地球規模】

・・・・・

序章通　日　教育考察　作与共生

　　料　和　算机　言翻　作　人文科学　作与共生的主　，广　人知。但是，正如我在基　篇　，文理融合的　合案例　有很多。比如：　件和硬件，法律和技　（　利)，法律和医学，心理和医学，文化和　养，　　和工学，社会和系　等。下面，　者就来　宏　的文学分析展开　述。

我　将宏　　价　目　　地球　模与格式的　　。人文科学中，一提到地球　模，不禁就会　人想到比　　言和比　文学的研究。而且，如果　在　向　展，其就会成　文科思　或者理科思　。所以，我想到通　共生　　格式，把它　成“文　主，理　副”的 L 形。

　上在人文科学以外的　域，一般都会采取 L 式。人文科学可以个人研究个人，所以一般在　向上做柱子。即使致力于共生，在文理之　也会加入相反的 T 形　知科学，然后向上　　3、4 根柱子。但并不能通　　种形式消去黑箱。可以再　的系列内　找某个研究点，重点研究。如此一来，横向的滑　就会　利，共生的　合就也会增加。

分解反向的 T 形　知科学手法，在　向上加入　言　知，其　出就会　成横向加入的信息　知　入。只要　成某些数字和　号　出的　，L 形便会形成。

以下的　文和基　篇相关　，以森鴎外　史小　中　　性　的作品《(山椒大夫》和　性　的作品《佐　甚五郎》　　材。如果我用 L 形　明分析，然后用关系数据　　明重点的　，可以得出大概　　。

如果您　共生的　　(　　) 感　趣，可以通　您自己喜　的小　来　行考察。同一般的　　不一　，您将可以期待看到人眼看不　的深　含　。

第一章的主干内容　2014 年 11 月在南京　　大学　　的中国日　教学研究会江　分会上　表的研究内容，本次　次年刊登在　文集上的　文　行　再加工。在制作数据　后，了分析数据需要考察的　合和偏差，我写了第二章的内容。第二章是 2016 年 11 月在南京林　大学　　的中国日　教学研究会江　分会上　表的研究内容。

当然宏　文学分析也有周期。例如，地球　模（　西南北）→格式　　1 →格式　　2 →格式　　3 →　西南北。

第一章森鴎外の「山椒大夫」のデータベース化とその分析

【要約】

シナジーのメタファーを考察するために、森鴎外（1862 年-1922 年）の歴史小説に挑戦する。鴎外は、明治天皇や乃木大将の死後、後世に普遍性を残すために、猛然と歴史小説を書いた。これまでに説明してきた「トーマス・マンとファジィ」、「魯迅とカオス」に続くシナジー論の第三弾は、「山椒大夫」（1915 年）を執筆していた鴎外の脳の活動を探るテキストの分析である。

【キーワード】

シナジーのメタファー、受容と共生、Ｌのモデル、シナジーのトレーニング、歴史小説、情動、感情と行動、知的財産、テキスト共生

1 シナジーのメタファー

小説を読むときは、通常、作品の受容を考えるため、読者の脳の活動（購読脳）が問題になる。しかし、本論では作家の執筆時の脳の活動（執筆脳）を探るために、共生の読みについて考察していく。シナジーのメタファーは、受容と共生をまとめる一例である。イメージは通常のメタファーを踏襲し、A が根源領域、C が目標領域、そして B がその写像という関係になる。ここでは A が人文科学、B が認知科学、C が脳科学である。

論文の目的は、小説のデータベースを作るために必要なシナジーのトレーニングについて考え、受容と共生からなるデータベースを作成し、シナジーのメタファーを考察することにある。

根源領域 **A** 人文科学　　写像 **B** 認知科学　　目標領域 **C** 脳科学

但し、シナジーのメタファーのイメージを整えるために、ＣからＢへのリターンを想定している。文学研究をマクロにシステム化するためである。

2 Ｌのストーリーの作り方

2.1 文学と計算のモデル

①縦は言語、文学、〇〇語教育といった人文の軸、横は共生の軸で、奥に行くと双方を調整する脳科学がある。但し、縦横の末端にも回帰的な脳の活動のサイクルを想定する。縦には入出力の切り替えを、横には体内の信号の流れを置き、それぞれ出力の確認とする。

②縦は解析のイメージであり、横は生成のイメージである。表象とは、知覚したイメージを記憶して心で再現する人間の精神活動のことである。例えば、言語、記憶、感情、思考、判断といった精神活動は、脳が生み出している。また、シンボルは知覚するものであり、パターンはその処理に当たる。

③縦横のテーマには、トーマス・マン、魯迅、森鴎外そして英独中日といった東西の文学や言語の比較、リスク回避や意思決定による作家の執筆脳とか知的財産などがある。

④このモデルの役割は、Ａ（人文）＋Ｂ（言語の認知）の解析イメージとＢ（情報の認知）＋Ｃ（脳科学）の生成イメージをまとめることにある。情報の流れは、ＡとＢから異質のＣに到達後、解析イメージにリターンする。

2.2 シナジーのトレーニング

人文科学の人でもできるトレーニングとして組のアンサンブルを考える。シナジーという研究の対象は、元々が組からなっているためである。例えば、手のひらを閉じたり開いたりするのも、肘を伸ばしたり畳んだりするのも運動でいうシナジーである。Ｌのモデルができるだけ多くの組を処理できるように、シナジーの研究のトレーニングとして三つのステップを考える。

Ａ シナジーの組

例えば、ソフトウェアとハードウェア、法律と技術（特許）、法律と医学、心理と医学、文化と栄養、経営工学、金融工学、社会とシステムそして文学と計算などがこのグループに入る。これらの中から何れかの組を選択して、テーマを作っていく。もちろんこれらの組について複数対応できることが望ましい。

Ｂ テーマの組

選んだ組からＬに通じるテーマを作るには、人文科学と脳科学という組のみならず、ミクロとマクロ、対照の言語文学と比較の言語文学、東洋と西洋などの項目も必要になる。ここでミクロとは主の専門の研究を指し、マクロとはどの系列に属していても該当するように、地球規模とフォーマットのシフトを評価の項目にする。シナジーの研究は、バランスを維持することが大切である。

「トーマス・マンとファジィ」は、ドイツ語と人工知能という組であり、「魯迅とカオス」は、中国語と記憶や精神病からなる組である。そこには洋学と漢学があり、また長編と短編という組もある。計算と文学のモデルは、こうした調整が土台になっている。

表１

テーマの組

説明

●文系と理系

小説を読みながら、文理のモデルを調節する。

●人文科学と社会科学

文献とデータの処理を調節する。

●言語文学（対照と比較）

対照言語と比較言語の枠組みで小説を分析する。

●東洋と西洋

東洋と西洋の発想の違いを考える。例えば、東洋哲学と西洋哲学、国や地域における政治、法律、経済の違い、東洋医学と西洋医学。

●基礎と応用

まず、ある作家の作品を題材にしてＬのモデルを作る。次に、他の作家のＬのモデルと

比較する。

●伝統の技と先端の技

人文科学の文献学とシナジーのストーリーを作るための文献学（テキスト共生）。ブラックボックスを消すために、テキスト共生の組を複数作る。

●ミクロとマクロ

ミクロは主の専門の調節、マクロは複数の副専攻を交えた調整。少なくとも縦に一つ（比較）、横にもう一つ取る（共生）。

C 分析の組

　さらに、テーマを分析するための組が必要である。例えば、ボトムアップとトップダウン、理論と実践、一般と特殊、言語情報と非言語情報、強と弱など。

表 2

分析の組

説明

●ボトムアップとトップダウン

専門の詳細情報から概略的なものへ移行する方法。及び、全体を整える概略的な情報から詳細なものへ移行する方法。

●理論と実践

すべての研究分野で取るべき分析方法。言語分析については、モンターギュの論理文法が理論で、翻訳のトレーニングが実践になる。

●一般と特殊

小説を扱うときに、一般の読みと特殊な読みを想定する。前者は受容の読みであり、後者は共生の読みである。

●言語情報と非言語情報

前者は言語により伝達される情報、後者はジェスチャーのような非言語情報である。

●強と弱

組の構成要素は同じレベルでなくてもよい。両方とも強にすると、同じ組に固執するため、テーマを展開させにくくなる。

このようにして組のアンサンブルを調節しながら、トーマス・マンの「魔の山」や魯迅の「狂人日記」及び「阿Ｑ正伝」についてＬのストーリーを作成した。

Ｄ シナジーのメタファーのプロセス

①知的財産が自分と近い作家を選択する。

②場面のイメージのＤＢを作成する。場面が浮かぶように話をまとめる。

③解析イメージから何れかの組を作る。言語解析は構文と意味が対象になる。

④認知科学のモデルは、Ｌのプロセス全体に適用される。例、前半は言語の分析、後半は情報の分析。

⑤ 場面ごとに問題の解決と未解決を確認する。

⑥信号の流れは、Ｌに縦横滑ってＣに到達後、解析イメージに戻る。解析、生成の最後で出力の確認をする。

⑦各分野の専門家が思い描くリスク回避を参考にしながら、作家の執筆脳を想定する。

⑧ 問題解決の場面を中心にして、テキストの共生について考察する。

①、②、③は受容の読みのプロセス、④、⑤は認知科学の前半と後半、⑥は異質のＣとのイメージ合わせになり、⑦で作家の脳の活動を探り、⑧でシナジーのメタファーに到達する。データベースの作成については、これらが全て収まるようにカラムを工夫するとよい。

【プロセスの解説】

①一文一文解析しながら、選択した作家の知的財産を追っていく。例えば、受容の段階で文体などの平易な読みを想定し、共生の段階で知的財産にまつわる異質のＣを探る。この作業は②と③でも行われる。

② 場面のイメージが浮かぶような対照表を作る。

③テキストの解析を何れかの組にする。例えば、トーマス・マンは「イロニーとファジィ」、魯迅は「馬虎と記憶」という組にする。組が見つからなければ、①から③のプロセスを繰り返す。

④ 認知プロセスの前半と後半を確認する。

⑤場面の情報の流れについて考える。問題解決と問題未解決で場面を分ける。

⑥問題解決の場面は、異質のＣに到達後、出力を確認してから解析イメージにリターンする。問題未解決の場面は、異質のＣに到達後、すぐに解析イメージにリターンする。こう考えると、システムがスムーズになる。

⑦各分野のエキスパートが思い描くリスク回避と意志決定がテーマである。緊急着陸、救急医療、株式市場、環境問題などから生成イメージにつながるようにリスク回避のポイントを作る。そこから、作家の執筆脳を考える。

⑧これにより作家の脳の活動の一例といえるシナジーのメタファーが作られる。「トーマス・マンとファジィ」、「魯迅とカオス」というシナジーのメタファーは、テキスト共生に基づいた組のアンサンブルであり、文学をマクロに考えるための方法である。

3　鴎外の脳の活動は感情

動物全般の感情は、人間を含めて動物が生得的に持っている本能のことをいう情動と人間特有の感情といえる尊敬の念に分けられる。前者は動物実験を通して客観的に捉えることができ、後者は個人の主観レベルで処理することができる。時間的な見方をすれば、情動は瞬間的な思いになり、尊敬の念は継続的な思いになる。周知の通り、感情には喜怒哀楽のようにどちらにも入るものがある。（二木 1999）

本論ではこれらをカラムに採用し「山椒大夫」のデータベースの作成法を検討していく。文学の研究を少しでも客観的にするためである。

情動の起因には諸説が考えられる。そのうちの一つに外的要因（誘発）と内的要因（創発）による体の反応が挙げられる。鴎外の歴史小説にも外的要因と内的要因による思考があり、誘発が主の作品と創発が主の作品に分類することができる。前者には「安井夫人」、「山椒大夫」、後者には「魚玄機」、「佐橋甚五郎」が入る。こうした思考の流れは行動とも関連する。

情動ついては、大脳の内側にある大脳辺縁系が密接な関係にある。特にその中でも扁桃体が重要であり、扁桃体と線維連絡のある視床下部や視床下部と線維連絡のある中脳中心灰白質も、情動の表出に関与している。例えば、情動に伴う自律神経系の反応（心拍数、呼吸、血圧の変化）や行動面での反応（恐怖に対するすくみや逃避、怒りによる攻撃）の生起である。つまり、扁桃体―視床下部―中脳中心灰白質という 1 つの系が情動に関与する脳の部位になる。（二木 1999）

3.1『山椒大夫』（1914）

この作品は、遠く離れた父親に会いに行く旅の途中で母親と別れるも、姉弟が力を合わせて両親と世話になった人たちに献身の気持ちを伝えるという内容である。これを外から内への思考とすると、ここでの脳の活動は誘発になる。基礎編第二章の論文「読む・書く」で説明した【要約の手順】と照合して、以下に要約文を作成する。

①安寿と厨子王は、人買いに買われて由良の山椒大夫の所で奴婢になり、潮汲みと柴刈りを強いられる。健気な中にも父母への思いは募るばかり。ある日、初めて二人一緒に柴刈りに出かけた。姉は予め弟に二人では駄目だから、一人で筑紫の父の所へ行って、佐渡へ母を迎えに行くようにと話した。結局、厨子王は一人で都を目指すことになる。そして、安寿は入水する。

②僧形になった厨子王は都に上り、東山の清水寺に泊まる。開運の時がきた。関白師実に事の経緯を話したところ、筑紫に左遷した平正氏の嫡子という身元が判明し、厨子王は師実に客として迎えられる。師実が還俗した厨子王に冠を加えると、欲求を満たして

くれるものに接近する情動が厨子王に生まれる。

③厨子王は元服後正道と名のった。父の安否を筑紫に尋ねたところ、死亡していることがわかり、正道は身がやつれるほど嘆いた。体の生理状態と心の状態は、密接な関係にある。悲しい時には、涙があふれて全身が緊張し、子供のようにしゃくりあげて泣く。正道もその類である。ここでは身内との惜別による悔しい気持から、哀れな情動が生まれている。

④その後、正道は丹後の国守になる。都へ上る際に手を貸してくれた曇猛（どんみょう）律師は総都にし、安寿を懇ろに弔い、入水した岬に尼寺を建てた。そして、任国のために仕事をしてから、佐渡へ母を探しに行く。正道による母と姉への献身であり、尊敬の念でもある。

⑤佐渡に着いて大きな百姓家の生垣を覗くと、刈り取った粟の穂が干してあり、雀が啄むのを女が逐（お）っている。正道は心が引かれると同時に身が震えた。女は盲（めいし）である。耳を立てると、安寿と厨子王のことが恋しいと歌っている。探していた母がそこにいる。正道は臓腑が煮えくり返るも雄叫びを堪えた。縛られた縄が解かれたように垣根の中に駆け込んで、守本尊を額に押し当て母の前にうつ伏した。雀ではないとわかると、母の両方の眼は涙で潤い、その時目が開いた。そして、二人はぴたりと抱き合った。

⑥ここでも自分の欲求を満たしてくれるものに接近行動を示す情動が母と正道に現れる。情動にはこのように人を行動に駆り立てる性質がある。つまり、情動を単なる心的状態ではなく、脳の機能として捉えることにより、「鴎外は感情」というシナジーのメタファーが作られる。

◇要約文を 4 段落（起承転結）で考える。①が起、②が承、③と④が転、⑤と⑥が結になる。

◇段落毎にキーワードを 6、7 個探す。①であれば、安寿と厨子王、由良の山椒大夫、奴婢、一緒に柴刈、一人で都を目指す、入水する、にする。

◇段落毎に中心文を探す。①の中心文は、「姉は予め弟に二人では駄目だから、一人で筑

紫の父の所へ行って、佐渡へ母を迎えに行くようにと話した」にする。

◇中心文を使用して、その段落を要約する。できるだけ 5W1H も考える。キーワードとキーワードを助詞や動詞でつないでいく。

◇テーマ・レーマも考慮すること。例えば、「一人で筑紫の父の所へ行って」が旧情報で、「厨子王は一人で都を目指す」が新情報。

表 3　厨子王の感情と行動

感情＋誘発

①平正氏の嫡子という身元が判明。（喜び）

②父の安否を筑紫に尋ねると、死亡が確認される。（哀れ）

③二人はぴたりと抱き合った。（喜び）

行動＋誘発
①師実が厨子王に冠を加える。欲求を満たしてくれるものに接近する情動が厨子王に生まれる。

②身がやつれるほど嘆いた。身内との惜別による悔しい気持から哀れな情動が生まれる。

③欲求を満たしてくれるものに接近する情動が母と正道に生じる。

感情＋尊敬の念

①正道（厨子王）が丹後の国守になる。（責任感）

行動＋尊敬の念

①律師は総都にし、安寿のために尼寺を建て、母を探しに佐渡へ行く。母と姉への献身である。

3.2 衛生学から見た感情と行動（テキスト共生）

鴎外は、医学の分野で衛生学を研究した。1907 年に博文館から「衛生学大意」を出版し、ドイツ留学中に研究した内容を公衆衛生の観点からまとめている。衛生学は、人間の健康を保持するためにその知識や理論及び技術をまとめた学問体系である。個人衛生と集団衛生からなり、環境も含めた個人や地域の集団が研究の対象になる。（渡辺 1991）ここでは、鴎外の知的財産といえる衛生学から疾病の外的要因と内的要因を探り、それらを「感情と行動」につなげていく。

明治時代は衛生学に関する統計がほとんどなかったため、「衛生学大意」には当時流行していた疫病について、発症の経緯、患者数、死亡者数、感染経路、予防法などが記されている。一方、現代の衛生学は、衛生統計のような科学的根拠に基づいて現状を捉えるため、効率よく保健活動が進められている。健康を維持するには、発病について理解をし、原因を予防する必要がある。

例えば、ストレスは何に起因するのであろうか。人間には体の働きを調節する自立神経、ホルモンを司る内分泌、異物から体を守る免疫という三つの機能からなるホメオスタシス（生体恒常性）がある。人間の精神活動は、この三つの機能がバランスを崩すと疾病状態になり、システムが相互に作用しなくなるため、脳内の視床下部が過剰にストレッサーを受けて全身に指令が伝わらなくなる。（日本成人病予防協会 2014）

表 4 ストレスの原因

原因　外的ストレッサー

説明　物理的：寒暖の変化、騒音、熱、放射線、高低音、社会的：経済情勢の変化、人間関係

原因　内的ストレッサー

説明　心理的/情緒的：緊張、不安、悩み、焦り、怒り、憎しみ、生理的/身体的：疲労、不眠、健康障害

しかし、多少の変化なら元に戻そうとする作用がホメオスタシスにはあるため、体のバランスが保たれて健康は維持できる。体温、血圧、体液、ウイルスの排除、傷の修復などがその例である。

話を鴎外に戻すと、受容と共生からなるＬの分析では、最初に歴史小説を解析して、外から内と内から外という思考の流れを想定し、そこから誘発と創発という情動の起因を考えた。また、情動と尊敬の念からなる感情という上位概念は、行動と組になる。情動には人を行動に駆り立てる性質があるため、「感情と行動」は自然な組といえる。(情動＼[誘発＋創発＼]＋尊敬の念＝感情→行動)

一方、衛生学からは、精神的な原因による産業疲労について考えてみよう。仕事がら気持ちや体に疲労がたまると、瞬時にも継続的にも快不快、好き嫌いといった感情が現れる。これは行動からもわかることであり、顔の表情や振舞いを見れば疲れた様子はすぐに見て取れる。（疲労→感情＼[瞬時＋継続＼]→行動）

例えば、ウイルスに感染して中耳炎による耳痛が発生したとする。街に流れる音楽も騒音になり、イライラして不愉快な思いをし、静かな環境を求めて迂回したりする。早期治療を試みればよいが、そうでないと炎症が慢性になり、集中が途切れ人付き合いも悪くなる。そのため、疾病についても「感情と行動」という組を作ることができる。

4 データベースの作成法と分析

データベースの作成法について説明する。エクセルのデータについては、列の前半（文法１から意味５）が構文や意味の解析データ、後半（医学情報から人工知能）が理系に寄せる生成のデータである。一応、Ｌ（受容と共生）を反映している。データベースの数字は、登場人物を動かしながら考えている。

こうしたデータベースを作る場合、共生のカラムの設定が難しい。受容はそれぞれの言語ごとに構文と意味の解析をし、何かの組を作ればよい。しかし、共生は作家の知的財産に基づいた脳の活動が問題になるため、作家ごとにカラムが変わる。

【データベースの作成】

表５山椒大夫のデータベースのカラム

項目名内容 説明

文法１　名詞の格　鴎外の助詞の使い方を考える。

文法２　ヴォイス　能動、受動、使役。

文法３　テンス、アスペクト　現在、過去、未来、進行形、完了形。

文法４　モダリティ　様相の表現。

意味１　喜怒哀楽　情動との接点。瞬時の思い。

意味２　五感　視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚。

意味３　思考の流れ　外から内（誘発）、内から外（創発）。

意味４　尊敬の念　感情に見られる継続的な思い。

意味５　振舞い　ジェスチャー、身振り。直示と隠喩を考える。

医学情報　鴎外との接点　受容と共生の接点。構文や意味の解析から得た組「情動と尊敬の念」を共生にスライドさせるため、メディカル情報をここに置く。

記憶　短期、作業記憶、長期（陳述と非陳述）作品から読み取れる記憶を拾う。長期記憶は陳述と非陳述に分類される。

情報の認知１　感覚情報の捉え方　感覚器官からの情報に注目するため、対象の捉え方が問題になる。例えば、ベースとプロファイルやグループ化または条件反射。

情報の認知２　記憶と学習　外部からの情報を既存の知識構造に組み込む。その際、未知の情報についてはカテゴリー化する。学習につながるため。

情報の認知３　計画、問題解決、推論　受け取った情報は、計画を立てるときにも役に立つ。目的に応じて問題を分析し、解決策を探っていく。獲得した情報が完全でない場合、推論が必要になる。

人工知能　衛生学１　エキスパートシステム　ホメオスタシスが崩れる要因を外的と内的に分けて、そこから何れかの感情を引き出す。

人工知能　衛生学２　エキスパートシステム　リスク回避を目的とした行動にも注目する。

【リレーショナル分析 1】

表 6 受容と共生のイメージ合わせ

安寿と厨子王が山椒大夫の下で働く場面

Ａそこでまた落ち葉の上にすわって、山でさえこんなに寒い、浜辺に行った姉さまは、さぞ潮風が寒かろうと、ひとり涙をこぼしていた。
意味１　3、意味２　5、意味３　1、意味４　1、意味５　1、衛生学１　1、衛生学２　1

Ｂ日がよほど昇ってから、柴を背負って麓へ降りる、ほかの樵が通りかかって、「お前も大夫のところの奴か、柴は日に何荷苅るのか」と問うた。
意味１　3、意味２　1+2、意味３　1、意味４　3、意味５　1、衛生学１　3、衛生学２　1

Ｃ「日に三荷苅るはずの柴を、まだ少しも苅りませぬ」と厨子王は正直に言った。
意味１　3、意味２　1、意味３　1、意味４　1、意味５　1、衛生学１　1、衛生学２　1

Ｄ「日に三荷の柴ならば、午までに二荷苅るがいい。柴はこうして苅るものじゃ。」樵は我が荷をおろして置いて、すぐに一荷苅ってくれた。
意味１　3、意味２　1+2+5、意味３　1、意味４　3、意味５　1、衛生学１　3、衛生学２　2

Ｅ厨子王は気を取り直して、ようよう午までに一荷苅り、午からまた一荷苅った。
意味１　4、意味２　１＋５、意味３　2、意味４　1、意味５　1、衛生学１　3、衛生学２　1

分析例

1 安寿と厨子王が由良の山椒大夫の館に着いて、そこで仕事をする場面。

2 本論文では、「山椒大夫」執筆時の鴎外の脳の活動を誘発と考えているため、意味 3 の外から内への流れに注目する。全体では、誘発対創発で誘発が五割八分。

3 尊敬の念の強弱を全体で比較すると、強が六割。

4 振舞いの直示と隠喩を比較すると、直示が七割。

5 ホメオスタシスを崩す要因が感情であれば、そこからいずれかの行動が現れ、ホメオスタシスが崩れない行動であれば、恒常性は保たれている。

6 意味 1：①喜②怒③哀④楽、意味 2：①視覚②聴覚③味覚④嗅覚⑤触覚、意味 3：①誘発②創発、意味 4：①尊敬強②弱③記事なし、意味 5：①直示②隠喩

7 人工知能衛生学 1：ホメオスタシスを崩す①外的要因（物理、社会）②内的要因（心理、情緒、生理、身体）③記事なし（恒常性維持）、人工知能衛生学 2：①行動②エキスパート（リスク回避）

テキスト共生の公式

ステップ 1：情動（意味 1、2、3）と尊敬の念（意味 4）を合わせて感情とし、感情と振舞い（意味 5）から解析の組（感情と行動）を作る。

ステップ 2：衛生学の特性からも「感情と行動」という組を作り、解析の組と合わせる。

A：感情（③哀＋⑤触覚＋①誘発＋①尊敬強）と行動（①直示）という組を、ホメオスタシスが崩れる外的要因①と涙が溢れるという行動①からなる衛生学の組と合わせる。

B：感情（③哀＋［①視覚＋②聴覚］＋①誘発＋③記事なし）と行動（①直示）という組を、ホメオスタシスの維持③と何もしないという行動①からなる衛生学の組と合わせる。

C：感情（③哀＋①視覚＋①誘発＋①尊敬強）と行動（①直示）という組を、ホメオスタシスが崩れる外的要因①と芝を刈らないという行動①からなる衛生学の組と合わせる。

D：感情（③哀＋［①視覚＋②聴覚＋⑤触覚］＋①誘発＋③記事なし）と行動（①直示）という組を、ホメオスタシスの維持③とリスク回避②からなる衛生学の組と合わせる。

E：感情（④楽＋［①視覚＋⑤触覚］＋②創発＋①尊敬強）と行動（①直示）という組を、ホメオスタシスの維持③と芝を刈るという行動①からなる衛生学の組と合わせる。

結果　表 6 については、テキスト共生の公式（3.2）が適用される。

【リレーショナル分析 2】

情報の認知 1（感覚情報）

感覚器官からの情報に注目することから、対象の捉え方が問題になる。また、記憶に基づく感情は、扁桃体と関係しているため、条件反射で無意識に素振りに出てしまう。このプロセルのカラムの特徴は、①ベースとプロファイル、②グループ化、③条件反射である。

情報の認知 2（記憶と学習）

外部からの情報を既存の知識構造へ組み込む。この新しい知識はスキーマと呼ばれ、既存の情報と共通する特徴を持っている。未知の情報はまたカテゴリー化される。このプロセスは、経験を通した学習になる。このプロセルのカラムの特徴は、①旧情報、②新情報である。

情報の認知 3（計画、問題解決、推論）

受け取った情報は、計画を立てるプロセスでも役に立つ。その際、目的に応じて問題を分析し、解決策を探っていく。しかし、獲得した情報が完全でない場合は、推論が必要になる。このプロセルのカラムの特徴は、①計画から問題解決へ、②問題未解決から推論へ、である。

表 7 感情と行動の認知プロセス

同上

情報の認知 1

情報の認知 2

情報の認知 3

Ａそこでまた落ち葉の上にすわって、山でさえこんなに寒い、浜辺に行った姉さまは、さぞ潮風が寒かろうと、ひとり涙をこぼしていた。
情報の認知１　3、情報の認知２　１、情報の認知３　2

Ｂ日がよほど昇ってから、柴を背負って麓へ降りる、ほかの樵が通りかかって、「お前も

大夫のところの奴か、柴は日に何荷苅るのか」と問うた。

情報の認知１　3、情報の認知２　2、情報の認知３　2

Ｃ「日に三荷苅るはずの柴を、まだ少しも苅りませぬ」と厨子王は正直に言った。

情報の認知１　3、情報の認知２　1、情報の認知３　2

Ｄ「日に三荷の柴ならば、午までに二荷苅るがいい。柴はこうして苅るものじゃ。」樵は我が荷をおろして置いて、すぐに一荷苅ってくれた。

情報の認知１　1、情報の認知２　2、情報の認知３　1

Ｅ厨子王は気を取り直して、ようよう午までに一荷苅り、午からまた一荷苅った。
情報の認知１　1、情報の認知２　2、情報の認知３　1

Ａ：情報の認知１は③条件反射、情報の認知２は①旧情報、情報の認知３は②問題未解決から推論へ、である。

Ｂ：情報の認知１は③条件反射、情報の認知２は②新情報、情報の認知３は②問題未解決から推論へ、である。

Ｃ：情報の認知１は③条件反射、情報の認知２は①旧情報、情報の認知３は②問題未解決から推論へ、である。

Ｄ：情報の認知１は①ベースとプロファイル、情報の認知２は②新情報、情報の認知３は①計画から問題解決へ、である。

Ｅ：情報の認知１は①ベースとプロファイル、情報の認知２は②新情報、情報の認知３は①計画から問題解決へ、である。

結果　厨子王はこの場面で、条件反射的に外部から情報を取り込み、問題未解決から問題解決へ向かっている。そのため「感情と行動」という組が相互に作用する。

5　まとめ

鴎外の執筆時の脳の活動を調べるために、まず受容と共生からなるＬのストーリーを文献により組み立てた。次に、「山椒大夫」のＬのストーリーをデータベース化して、最後に文献で留めたところを実験で確認した。そのため、テキスト共生によるシナジーのメタファーについては、一応の研究成果が得られている。

【参考文献】

片山智行：魯迅-阿 Q 中国の革命,　中公新書,　2007

二木宏明：情動のメカニズムの探求,　理研 BSI ニュース,　1999 March

日本成人病予防協会監修：健康管理士一般指導員受験対策講座,　ヘルスケア出版, 2014

花村嘉英：計算文学入門－ Thomas Mann のイロニーはファジィ推論といえるのか？ 新風舎,　2005

花村嘉英:「狂人日記」から見えてくるカオス効果について－認知言語学からの考察, 四川外国語大学国際シンポジウム,　2013

花村嘉英：从　知　言学的角度浅析　迅作品－魯迅をシナジーで読む,　華東理工大学出版社,　2015

森鴎外：山椒大夫・高瀬舟・安部一族,　角川文庫,　1995

渡辺周一他：公衆衛生学,　中央法規出版,　1991

第二章　森鴎外の「佐橋甚五郎」のデータベースとバラツキによる分析

【要約】

マクロのバランスを調節するときの二個二個のルールに従い、リレーショナル・データベースに関して、組み合わせのみならず、平易な統計処理によるバラツキの分析も試みる。バラツキによる分析から得られた数字の意味は何なのか、それが本論の考察の対象である。

【キーワード】

シナジーのメタファー、創発、バラツキ、数字の意味

1 先行研究との関係

私のテキストの分析は、シナジーのメタファーを考察することである。最初に受容と共生からなるＬのストーリーを作成し、次にそれを反映するリレーショナル・データベースについて分析していく。

基本的に、「山椒大夫」(1914 年) と同じ方法で、「佐橋甚五郎」(1913 年) についても見ていくことにする。すでに説明したように、鴎外の執筆時の脳の活動を感情として、「鴎外と感情」というシナジーのメタファーを作成している。「山椒大夫」と「佐橋甚五郎」の違いは、前者が誘発の強い情動（外から内）で、後者が創発の強い情動（内から外）というところにある。この点を意識しながら、「佐橋甚五郎」のデータベースについて考察していく。

2「佐橋甚五郎」は創発が強い

基礎編第二章の論文「読む・書く」で説明した【要約の手順】と照合して、以下に要約文を作成する。

【要約】

①佐橋甚五郎は、家康の嫡子信康に仕える小姓であった。どんな用事でも敏捷にこなし、武芸にも優れていた。また、遊芸も巧者で笛を上手に吹いた。ある時、信康の物詣の際に、通りすがりの沼に下りていた鷺を撃てるかどうかで小姓の蜂谷と口論になった。そこで何かを賭けることにした。鉄砲の銃弾は運良く鷺に命中した。甚五郎は、蜂谷に金熨斗付きの大小を求めた。しかし、蜂谷は拒んだ。翌日、蜂谷は傷もないのに死んでいた。甚五郎の行方がわからない。しかし、田舎に隠れていることが知れて、甚五郎の従兄佐橋源太夫がことの事情を家康に伝える。

②この短編には武士の意地が記されている。それを内から外への思考とすると、脳の活動としては創発が考えられる。甚五郎の欲求は蜂谷が拒絶したために満たされない。欲求の充足が阻止されると、怒りが生じて情動が生まれる。こうした創発は、人に攻撃的な行動を促す。

③家康は事情を察してから源太夫に言い放つ。奉公として甚五郎に武田方の甘利四郎三郎を討たせることになった。甚五郎は、目の上の瘤であった小山の城で甘利を討ち、さらには北條氏に対陣を張って軍功を収めた。ところが甚五郎に賞美の言葉はなかった。その上、甘利に可愛がられていたとのことで、大阪へ遷った羽柴家への使いを見送られる。その後、源太夫の邸へも立ち寄らずに行方がわからなくなった。

④ここでも甚五郎は思いが満たされないため、不快感が生じて情動が現れている。二木（1999）によると、こうした適応行動が起こるには、外界から入ってきた刺激の生物学的意義（例えば、有害か否か）を評価する過程が働いているという。甚五郎にとってこの発現はどうやら有害だったようだ。24 年の月日を経て朝鮮からの使いとして朝鮮人になりすまし、甚五郎は家康の前に現れる。

⑤情動ついては、大脳の内側にある大脳辺縁系が密接な関係にある。特にその中でも扁桃体が重要であり、扁桃体と線維連絡のある視床下部や視床下部と線維連絡のある中脳中心灰白質も、情動の表出に関与している。例えば、情動に伴う自律神経系の反応（心拍数、呼吸、血圧の変化）や行動面での反応（恐怖に対するすくみや逃避、怒りによる攻撃）の生起である。つまり、扁桃体―視床下部―中脳中心灰白質という 1 つの系が情動に関与する脳の部位になっている。

◇要約文を 4 段落（起承転結）で考える。①が起、②が承、③が転、④と⑤が結になる。

◇段落毎にキーワードを 6、7 個探す。①であれば、佐橋甚五郎、信康に仕える小姓、鷺撃ち、蜂谷と口論、蜂谷の死、従兄佐橋源太夫にする。

◇段落毎に中心文を探す。①の中心文は、「ある時、信康の物詣の際に、通りすがりの沼に下りていた鷺を撃てるかどうかで小姓の蜂谷と口論になった」にする。

◇中心文を使用して、その段落を要約する。できるだけ 5W1H も考える。キーワードとキーワードを助詞や動詞でつないでいく。

◇テーマ・レーマも考慮すること。例えば、「何かを賭ける」が旧情報で、「鷺に命中」や「大小を求める」が新情報。

3 簡単な統計処理

3.1 データのバラツキ

グループ a（5、5、5、5、5）とグループ b（3、4、5、6、7）とグループ c（1、3、5、7、9）は、算術平均がいずれも 5 であり、また中央値（メジアン）も同様に 5 である。算術平均やメジアンを代表値としている限り、この 3 つのグループは差がないことになる。しかし、バラツキを考えると明らかに違いがある。グループ a は、全てが 5 のため全くバラツキがない。グループ b は、5 が中心にあり 3 から 7 までばらついている。グループ c は、1 から 9 までの広範囲に渡ってバラツキが見られる。グループ b のバラツキは、グループ c のバラツキよりも小さい。

次に、グループ d（1、1、4、7、7）とグループ e（1、4、4、4、7）だと、どちらのバラツキが大きいことになるのだろうか。グループ d は、中心の 4 から 3 も離れた所に 4 つの値がある。グループ e は、中心に 3 つの値があって、そこから 3 離れたところに値が 2 つある。

バラツキの大きさを定義する方法で最も有名なのが、レンジと標準偏差である。レンジはグループの最大値から最小値を引くことにより求めることができる。グループ d は、7-1=6 で、グループ e も 7-1=6 となる。レンジだけでバラツキを定義すれば、グループ d とグループ e は同じことになるが、グループ内の最大値と最小値だけを問題にするた

め、他の値が疎かになっている。そこでもう一つのバラツキに関する定義、標準偏差について見てみよう。

3.2 標準偏差

標準偏差は、グループの全ての値によってバラツキを決めていく。グループの個々の値から算術平均がどれだけ離れているのかによって、バラツキの大きさが決まる。

グループ d（1、1、4、7、7）の算術平均は 4 である。それぞれの値から算術平均を引くと、1-4=-3、1-4=-3、4-4=0、7-4=3、7-4=3 となる。この算術平均から離れている大きさを平均してやると、バラツキの目安が求められる。しかし、-3、-3、0、3、3 を全部足すと 0 になるため、さらに工夫が必要になる。

例えば、絶対値をとる方法とか値を 2 乗してマイナスの記号を取る方法がある。2 乗した場合、9、9、0、9、9 となり、平均値を求めると、5 で割って 7.2 となる。但し、元の単位が cm のときに、2 乗すれば cm2 となるため、7.2 を開いて元に戻すと、√ 7.2 cm2 ≒ 2.68 cm というバラツキの大きさになる。

(1) 標準偏差の公式

$$\sigma = \sqrt{\Sigma (Xi - X)2 / n}$$

次にグループ e（1、4、4、4、7）について見てみよう。算術平均は 4 である。それぞれの値から算術平均を引くと、1-4=-3、4-4=0、4-4=0、4-4=0、7-4=3 となる。この算術平均から離れている大きさを平均すると、バラツキの目安が求められる。しかし、-3、0、0、0、3 を全部足すと 0 になるため、それぞれを 2 乗して、9、0、0、0、9 として平均値を求め、5 で割って 3. 6 を求める。

但し、元の単位が cm のときに 2 乗すれば、cm2 となるため、3. 6 を開いて元に戻すと、√ 3. 6 cm2 ≒ 1.89 cm というバラツキの大きさになる。従って、グループ d の方がグループ e よりもバラつきが大きいことになる。

以下では、標準偏差（１）の公式を使用して、作成した「佐橋甚五郎」のデータに関するバラツキから見えてくる特徴を考察していく。

4 場面のイメージを分析する

4.1 データの抽出

作成したデータベースから特性が 2 つあるカラムを抽出し、標準偏差によるバラツキを調べてみる。例えば、Ａ：思考の流れ（1 外から内の誘発と 2 内から外の創発）、Ｂ：ジェスチャー（1 直示と 2 隠喩）、Ｃ：情報の認知プロセス（1 旧情報と 2 新情報）、Ｄ：

情報の認知プロセス（1 問題解決と 2 未解決）というように文系と理系のカラムをそれぞれ 2 つずつ抽出する。

◆場面 1 鷺を打つ

表 1

原文

とある広い沼のはるか向うに、鷺が一羽おりていた。銀色に光る水が一筋うねっている側の黒ずんだ土の上に、鷺は綿を一つまみ投げたように見えている。

Ａ１　Ｂ２　Ｃ２　Ｄ２

ふと小姓の一人が、あれが撃てるだろうかと言い出したが、衆議は所詮打てぬということにきまった。

Ａ１　Ｂ２　Ｃ２　Ｄ１

甚五郎は最初黙って聞いていたが、皆が撃てぬと言い切ったあとで、独語のように「なに撃てぬにも限らぬ」とつぶやいた。

Ａ２　Ｂ２　Ｃ２　Ｄ１

それを蜂谷という小姓が聞き咎めて、「おぬし一人がそう思うなら、撃ってみるがよい」と言った。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ１　Ｄ２

「随分撃ってみてもよいが、何か賭けるか」と甚五郎が言うと、蜂谷が「今ここに持っている物をなんでも賭きょう」と言った。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

「よし、そんなら撃ってみる」と言って、甚五郎は信康の前に出て許しを請うた。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

信康は興ある事と思って、足軽に持たせていた鉄砲を取り寄せて甚五郎に渡した。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

「あたるもあたらぬも運じゃ。はずれたら笑うまいぞ」甚五郎はこう言っておいて、少しもためらわずに撃ち放した。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

上下こぞって息をつめて見ていた鷺は、羽を広げて飛び立ちそうに見えたが、そのまま黒ずんだ土の上に、綿一つまみほどの白い形をして残った。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

信康を始めとして、一同覚えず声をあげてほめた。田舟を借りて鷺を取りに行く足軽をあとに残して、一同は館へ帰った。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

◆場面 2 賭けをする

表 2

原文

源太夫はこういう話をした。甚五郎は鷺を撃つとき蜂谷と賭をした。蜂谷は身につけているものを何なりとも賭けようと言った。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

甚五郎は運よく鷺を撃ったので、ふだん望みをかけていた蜂谷の大小をもらおうと言った。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

それもただもらうのではない。代わりに自分の大小をやろうというのである。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

しかし蜂谷は、この金熨斗付きの大小は蜂谷家で由緒のある品だからやらぬと言った。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

甚五郎はきかなんだ。「武士は誓言をしたからは、一命をもすてる。よしや由緒があろうとも、おぬしの身に着けている物の中で、わしが望むのは大小ばかりじゃ。ぜひくれい」と言った。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

「いや、そうはならぬ。命ならいかにも棄ちょう。家の重宝は命にも換えられぬ」と蜂谷は言った。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ１　Ｄ２

「誓言を反古（ほご）にする犬侍め」と甚五郎がののしると、蜂谷は怒って刀を抜こうとした。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

甚五郎は当身を食わせた。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

それきり蜂谷は息を吹き返さなかった。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

平生何事か言い出すとあとへ引かぬ甚五郎は、とうとう蜂谷の大小を取って、自分の大小を代りに残して立ち退いたというのである。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

◆場面３ 甘利を討つ

表３

原文

澄み切った月が、暗く濁った燭の火に打ち勝って、座敷は一面に青みがかった光りを浴びている。

Ａ１　Ｂ２　Ｃ２　Ｄ２

どこか近くで鳴く蟋蟀（こうろぎ）の声が、笛の音にまじって聞こえる。甘利は瞼が重くなった。たちまち笛の音がとぎれた。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

「申し。お寒うはござりませぬか」笛を置いた若衆の左の手が、仰向けになっている甘利の左の胸を軽く押えた。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

ちょうど浅葱色の袷（あわせ）に紋の染め抜いてある辺である。

Ａ１　Ｂ２　Ｃ２　Ｄ２

甘利は夢現（ゆめうつつ）の境に、くつろいだ襟を直してくれるのだなと思った。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

それと同時に氷のように冷たい物が、たった今平手がさわったと思うところから、胸の底深く染み込んだ。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ２

何とも知れぬ温い物が逆に胸から咽へのぼった。甘利は気が遠くなった。

Ａ１　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

三河勢の手に余った甘利をたやすく討ち果たして、髻（もとどり）をしるしに切り取った甚五郎は、鼯鼠（むささび）のように身軽に、小山城を脱けて出て、従兄源太夫が浜松の邸に帰った。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

家康は約束どおり甚五郎を召し出したが、目見えの時一言も甘利の事を言わなんだ。

Ａ２　Ｂ１　Ｃ２　Ｄ１

蜂谷の一族は甚五郎の帰参を快くは思わぬが、大殿の思召（おぼしめ）しをかれこれ言うことはできなかった。

Ａ１　Ｂ２　Ｃ２　Ｄ１

4.2 標準偏差による分析

グループA、グループB、グループC、グループDそれぞれの標準偏差を計算する。その際、場面 1、場面 2、場面 3 の特性 1 と特性 2 のそれぞれの値は、質量ではなく指標であるため、特性の個数を数えて算術平均を出し、それぞれの値から算術平均を引き、その 2 乗の和集合の平均を求め、これを平方に開いていく。（公式 2）

求められた各グループの標準偏差の数字は、何を表しているのだろうか。数字の意味が説明できれば、分析は、一応の成果が得られたことになる。

◆グループＡ：思考の流れ（1 外から内の誘発と 2 内から外の創発）

場面 1（特性 1、6 個と特性 2、4 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.49 となる。

場面 2（特性 1、1 個と特性 2、9 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.3 となる。

場面 3（特性 1、7 個と特性 2、3 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.46 となる。

【数字からわかること】

場面 2 を見ると、創発を表す数字が極端であるため、「佐橋甚五郎」は、個人主義による作品といえる。

◆グループＢ：ジェスチャー（1 直示と 2 隠喩）

場面 1（特性 1、8 個と特性 2、2 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.4 となる。

場面 2（特性 1、10 個と特性 2、0 個）の標準偏差は、公式 2 により 0 となる。

場面 3（特性 1、7 個と特性 2、3 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.46 となる。

【数字からわかること】

原文の最後にもあるように、「佐橋甚五郎」は「続武家閑話」という文献から起こした作品であるため、場面 1、場面 2、場面 3 を通して、隠喩が少ないことがわかる。

◆グループＣ：情報の認知プロセス（1 旧情報と 2 新情報）

場面 1（特性 1、2 個と特性 2、8 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.4 となる。

場面 2（特性 1、1 個と特性 2、9 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.3 となる。

場面 3（特性 1、0 個と特性 2、10 個）の標準偏差は、公式 2 により 0 となる。

【数字からわかること】

場面 1、場面 2、場面 3 を通して、新情報の 2 が多いため、ストーリーがテンポよく展開していることがわかる。

◆グループD：情報の認知プロセス（1 問題解決と 2 未解決）

場面 1（特性 1、4 個と特性 2、6 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.49 となる。

場面 2（特性 1、2 個と特性 2、8 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.4 となる。

場面 3（特性 1、4 個と特性 2、6 個）の標準偏差は、公式 2 により 0.49 となる。

【数字からわかること】

場面 1、場面 2、場面 3 を通して、場面の前半は問題未解決、場面の後半は問題解決というパターンである。各場面の問題解決は、作品の冒頭の問題提起と関連があるはずだが、場面 2 は未解決が多いためにバラツキが大きくなっており、ここでは最も関連が低い。

5 まとめ

リレーショナル・データベースの数字及びそこから求めた標準偏差により、「佐橋甚五郎」に関して部分的ではあるが、既存の分析例が説明できている。従って、本論の分析方法、即ちデータベースを作成する文学研究は、データ間のリンクなど人の目には見えないものを提供してくれるため、これまでよりも客観性を上げることに成功している。

【参考文献】

大村平：統計のはなしー基礎・応用・娯楽,　日科技連,　1984

花村嘉英：計算文学入門－ Thomas Mann のイロニーはファジィ推論といえるのか？ 新風舎, 2005

花村嘉英：森鴎外の「山椒大夫」のデータベース化とその分析, 中国日本語教学研究会江蘇分会, 2015

花村嘉英：从　知　言学的角度浅析　迅作品－魯迅をシナジーで読む, 華東理工大学出版社, 2015

花村嘉英：森鴎外の『佐橋甚五郎』のデータベースとバラツキによる分析,　中国日語教育研究会江蘇分会,　2016

花村嘉英：日　教育　划　－面向中国人的日　教学法与森　外小　的数据　　用，　日本語教育のためのプログラム－中国語話者向けの教授法から森鴎外のデータベースまで，南京東南大学出版社，　2017

森鴎外：山椒大夫・高瀬舟・安部一族, 角川文庫, 1995

編集後記

この本を書きながら原稿を読み返してみると、毎日教案を練りながらクラスで学生を指導して、何か問題があればすぐに修正する、そうやって学期中は忙しく過ごしていたことを思い出す。本書に収められた論文は、中国で学生を指導しながら作成しており、一緒に勉強した学生たちの顔も随所に浮かんでくる。

中国各地を移動して日本語の教授法に取り組むうちに、使用した教材も 30 冊に達した。こうして無事に教授法の著作が作れたことで、中国での実績については一定の成果が得られていると思う。また、学生のみならず、中国人の先生方とも意見の交換ができ、それが中国での私の生活に大いに参考になったのも事実である。

しかし、人材育成については思うことがある。20 世紀型の文系脳、理系脳でセパレートの時代は終わり、21 世紀型の育成プログラムとして、やはりシナジー・共生を項目に入れて、縦の各自の専門と合わせて、まとめるとこうなるといったレベルまで達するように調整するとよい。日常の評価項目が増えれば増えるほど、各自の個人レベルでの調節が進み、調整管理の能力が高まっていく。実際に中国でも「共生」という言い方をする。

個人差はあるだろうが、こうした日常の努力こそが、グループワークの調節をスムーズにし、所属のみならず、第三者からの評価にもつながっていくと思う。これは、中国、日本を問わず、当てはまることであり、今後も引き続き取り組むべき課題であろう。

最後になるが、この著作ができるまで各地で一緒に教授法の仕事をし、助言をしてくれた中国人の先生方や中文の校正をしてくれた施　慧さん、株式会社コーディそして学会の発表時に熱く議論をした中日を代表する研究者の皆さんにここで改めてお礼を述べる次第である。

2017 年 10 月

花村嘉英

プロフィール

著者紹介

花村嘉英（はなむら よしひさ）

1961 年生まれ、立教大学大学院博士課程（ドイツ語学専攻）在学中に渡独。

1989 年からドイツ・チュービンゲン大学に留学し、同大大学院博士課程で言語学（意味論）を専攻。帰国後、技術文（ドイツ語、英語）の機械翻訳に従事する。

2009 年より中国の大学で日本語を教える傍ら、比較言語学（ドイツ語、英語、中国語、日本語）、文体論、シナジー論、翻訳学の研究を進める。テーマは、データベースを作成するテキスト共生に基づいたマクロの文学分析である。

2017 年に南京農業大学と大連外国語大学から栄誉証書（文献学）が授与される。

著書に「計算文学入門－ Thomas Mann のイロニーはファジィ推論といえるのか？」（新風舎）、「从　知　言学的角度浅析　迅作品－魯迅をシナジーで読む」（華東理工大学出版社）、「日本語教育のためのプログラム－中国人話者向けの教授法から森鴎外のデータベースまで」（南京東南大学出版社）、訳書にゲーテ「イタリア紀行」（共訳、バベル出版）がある。

論文には「論理文法の基礎－主要部駆動句構造文法のドイツ語への適用」、「人文科学から見た技術文の翻訳技法－英日、独日、中日」、「サピアの『言語』と魯迅の『阿 Q 正伝』－魯迅とカオス」などがある。

データベースについては、森鴎外、井上靖、川端康成、魯迅、トーマス・マン、ナディン・ゴーディマが中心である。

奥付

奥付

日本語教育のためのプログラム

中国語話者向けの教授法から森鴎外のデータベースまで

著者：
著者プロフィール：

感想はこちらのコメントへ

電子書籍プラットフォーム：パブー（https://puboo.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト

日本語教育のためのプログラム　中国語話者向けの教授法から森鴎外のデータベースまで

著　　花村嘉英

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社